

校内資料

「21世紀を担う、心豊かで創造性にあふれたエンジニア」を育成するために！

平成19年度

在学生・教員

KTC総合アンケート調査結果

[報告書 抜粋]

金沢工業高等専門学校

< 1-1 > 全体概略

調査の目的

本調査は下記の目的に従って実施した。

- 本調査は金沢高専の現在の状況を把握し、今後の教育改善を考えるための情報を収集することを主目的とする。
- また、この調査企画では教職員にも金沢高専の評価を聞き、学生との意識の違いを見いだすことで、学生のための学校づくりを考えるためのヒントを得ることも目的とする。
- 本調査は、将来的に継続して実施していくことで、金沢高専の評価の変化を時系列で確認することを前提として設計している。今回は平成15年度の調査から続いて5回目であり、5年間の時系列による状況の変化を把握する。
- 平成17年度の調査までは年度末(2月初旬)に実施していたが、分析結果を次年度の業務改善に活かすため、平成18年度から早めに調査を実施することとなった(9月中旬)。これによって結果に差が出ていることも考えられる。
- なお、5回の中で調査項目の見直しを行っているため、一部の設問は以前と比較できる状態にはない。

調査の概略

今回の調査の概略は下記の通り。

項目	内容	
調査概略	調査票による自記入式調査とした。(配布方法は下記の通り。全て学内での配布とした。) なお、全て無記名式とした。	
総回答数	578サンプル	
対象者と実施方法	1年生～5年生	・各クラスで配布し、回収した。(配布:9月14日、回収締切:9月14日) ・有効回答数 1年生:92サンプル、2年生:108サンプル、3年生:88サンプル、4年生:114サンプル、5年生:124サンプル
	卒業生	・今回は実施せず。5年に1回実施する予定で、次回の実施は平成20年度の予定。
	教職員	・各教職員に配布し、回収した。(配布:9月14日、回収締切:9月21日) ・有効回答数 52サンプル
	企業担当者	・今回は実施せず。5年に1回実施する予定で、次回の実施は平成20年度の予定。
調査主体	学校法人 金沢工業大学	
集計	有限会社 アイ・ポイント	

回属性別の調査項目に関して

質問分野	質問形式	1年	2年	3年	4年	5年	教職員
授業に関して	選択肢式&自由記述						
教員に関して	選択肢式&自由記述						×
「私の目標」に関して	選択肢式(達成度含む)						×
1年間の過ごし方	選択肢式						×
KIT-IDEALSに関して	選択肢式						
施設や設備などに関して	自由記述						
就職・進学に関して	選択肢式&自由記述	×	×	×			×
人材像に関して	選択肢式&自由記述	×	×	×	簡易版	簡易版	
教員業務に関して	選択肢式	×	×	×	×	×	
教員の金沢高専に関する考え	選択肢式	×	×	×	×	×	

集計に関して

分野	注意点
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none"> 各調査項目を属性毎に比較するために、加重平均値を多く活用している。 今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。 加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。 「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none"> 折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に、本来の棒グラフでは見にくくなるために折れ線グラフで表現しているものもある。

回答者数に関して

学年	平成19年度 回答者(今回分)	平成18年度 回答者	平成17年度 回答者数	平成16年度 回答者数	平成15年度 回答者数
1年	92人	121人	122人	135人	140人
2年	108人	117人	130人	135人	127人
3年	88人	113人	113人	98人	113人
4年	114人	121人	113人	109人	121人
5年	124人	105人	101人	116人	129人
卒業生	0人(実施せず)	0人(実施せず)	0人(実施せず)	0人(実施せず)	66人
教職員	52人	50人	48人	56人	50人
企業担当者	0人(実施せず)	0人(実施せず)	0人(実施せず)	0人(実施せず)	65人
合計	578人	627人	627人	649人	811人

< 1-2 > 回答者の基本属性

回答者全体像

- 今回の調査対象者は下記の通りであった。
- 昨年度までは旧学科名称と新学科名称が混在していたが、今年度からは共通化したため、下記の略称を使っている。

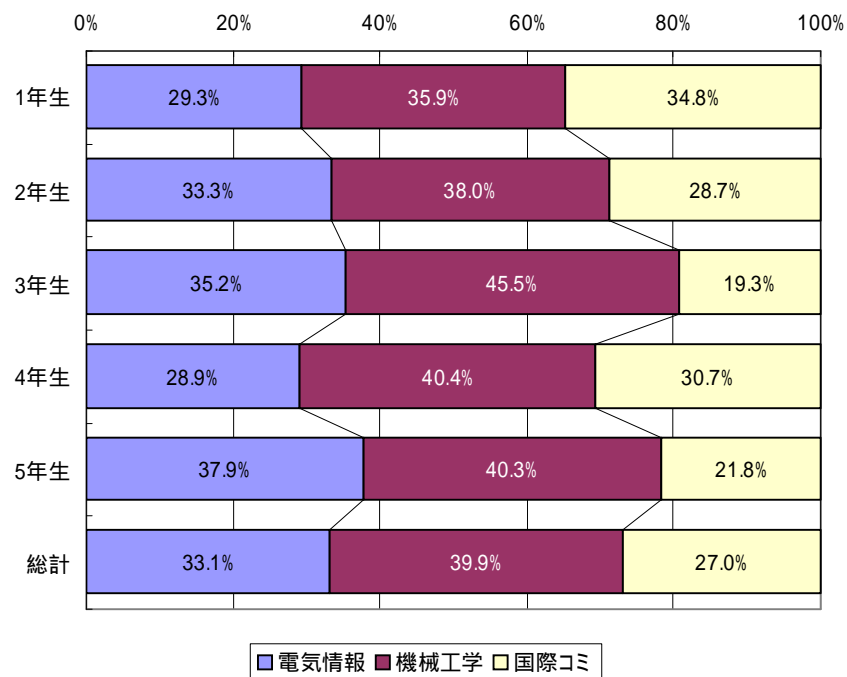
学年、属性別回答者数内訳

学年	学科	回答者数	学年計
1年生	電気情報工学科	27	92
	機械工学科	33	
	国際コミュニケーション情報工学科	32	
2年生	電気情報工学科	36	108
	機械工学科	41	
	国際コミュニケーション情報工学科	31	
3年生	電気情報工学科	31	88
	機械工学科	40	
	国際コミュニケーション情報工学科	17	
4年生	電気情報工学科	33	114
	機械工学科	46	
	国際コミュニケーション情報工学科	35	
5年生	電気情報工学科	47	124
	機械工学科	50	
	国際コミュニケーション情報工学科	27	
	教職員	52	52
	総計		578

学科の表記と、学科分類

正式名称	略称
電気情報工学科	電気情報
機械工学科	機械工学
国際コミュニケーション情報工学科	国際コミ

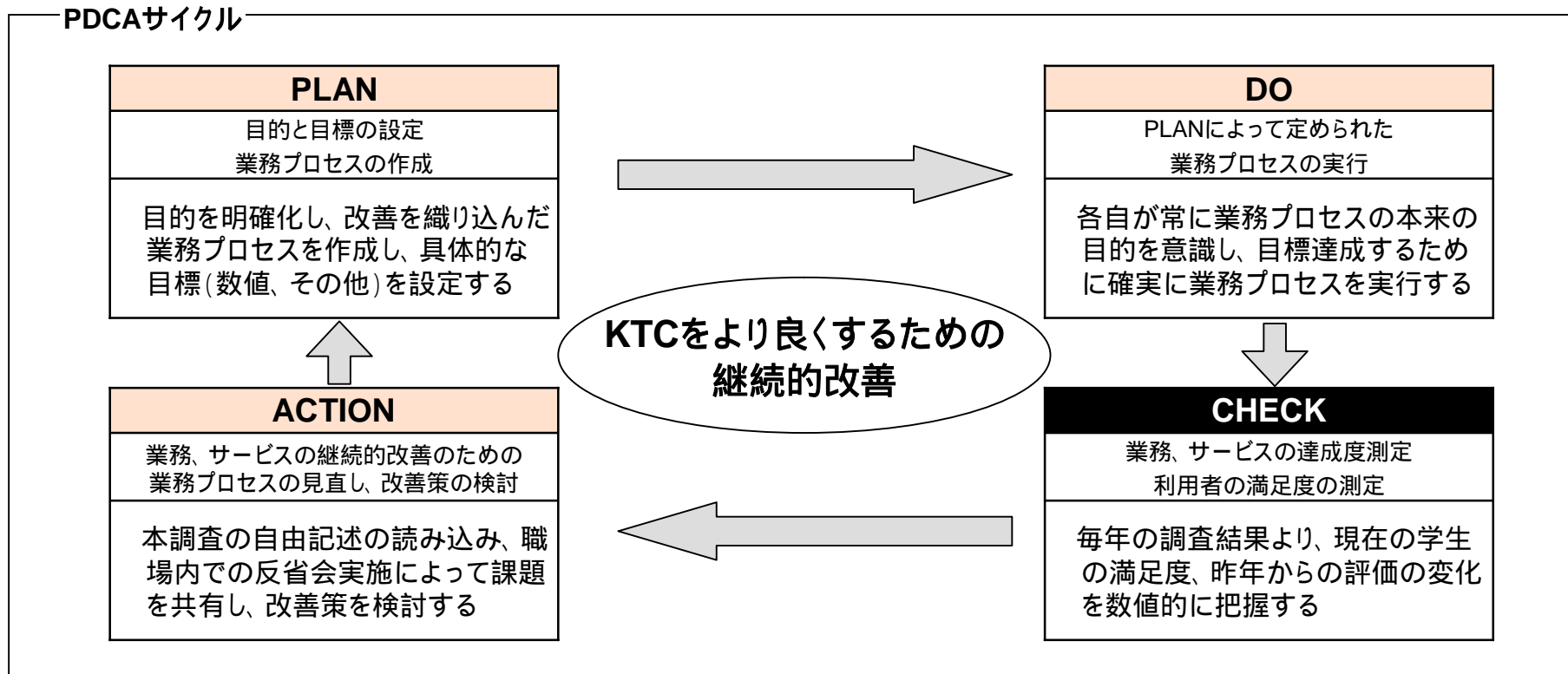
所属学科



< 1-3 > PDCAサイクルに関して

PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

本報告書は下記のような業務改善の流れの中で、下記のようにCHECKステップに位置づけられる。(昨年と同内容)



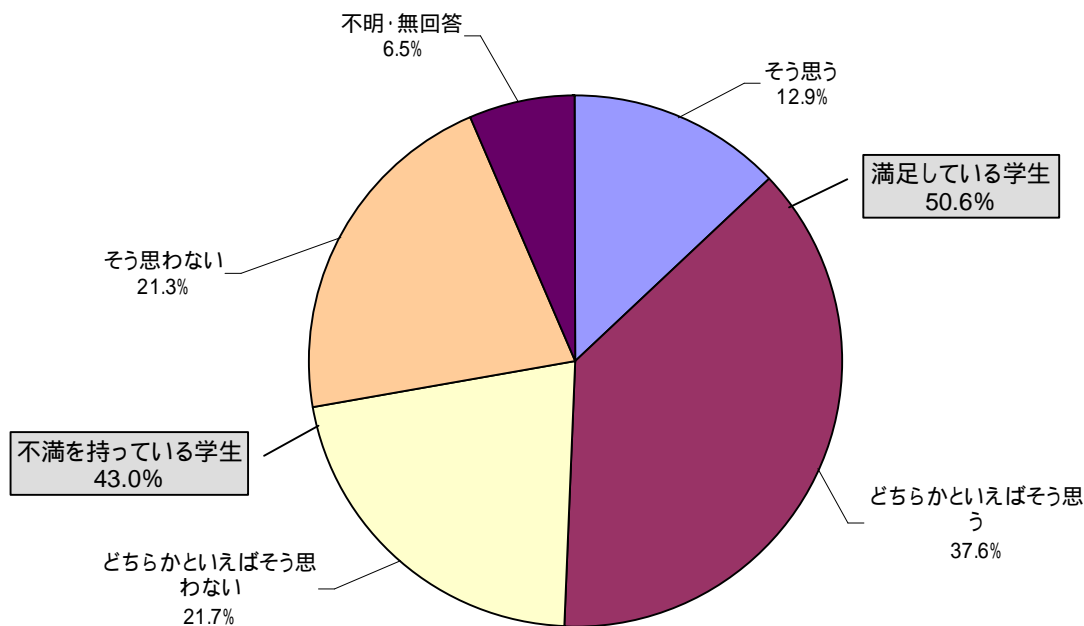
- 今回の調査によって得られた「学生の満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- この報告書で得られた結果はあくまでもアンケート結果を統計的に分析し、その結果に妥当と思われる理由をつけ加えた「仮説」であり、その検証と活用は今後の「ACTIONステップ」で行うことになる。
- また、ここで得られた数値的な結果を解釈し、金沢高専の改善に役立てるのは、実際に現場で教育や学校運営に携わっているメンバーが行うことであり、この報告書はその参考と位置づけられる。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見ることが主眼となる。
- 本報告書は、上記のような位置づけを継続していくことで、金沢高専の改善に資することを目的としている。

< 2-1 > 金沢高専の総合的な満足度

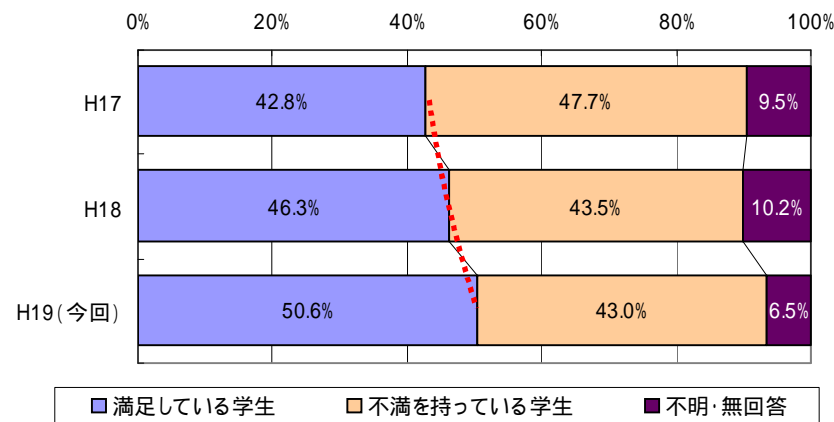
本年度の総合的な満足度

- 金沢高専の総合的な満足度を見たところ、「そう思う」が12.9%、「どちらかといえばそう思う」が37.6%であり、合わせると50.6%と過半数が金沢高専に満足していると答えており、不満を感じている学生は43.0%であった。
- 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせたものを「満足している学生」の割合として経年変化を見ると、H17の42.8%から確実に増加しており、H18には46.3%と3.5ポイントの増加、H19には50.6%と4.3ポイントの増加であった。
- そして、「満足している学生」と「不満を持っている学生」の割合の推移を見ると、H17には「不満を持っている学生」の方がわずかに多かったが、H18に逆転し、今回は「満足している学生」の割合が7.5ポイント上回る結果となっていた。
- H18から調査の実施時期を2月初旬から10月初旬に変更しており、その時期の調査は今回が2回目となるが、この結果を見ると調査時期の変更による影響は考えづらく、純粋に学生の満足度が向上していると言える。

総合的に見て金沢高専に満足していますか？



金沢高専の総合的な満足度 年度別比較



金沢高専の総合的な満足度 年度別内訳

年度	満足している学生の合計		不満を持っている学生の合計
H17	42.8%	<	47.7%
H18	46.3%	>	43.5%
H19(今回)	50.6%	>	43.0%

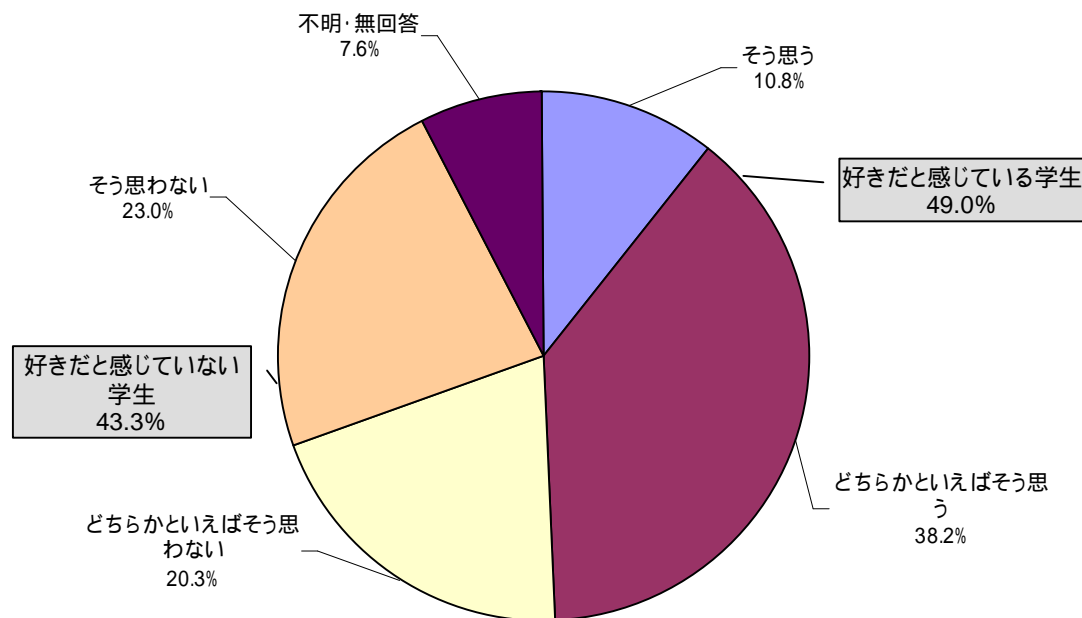
パーセンテージの合計は小数点以下の処理で合計が合わないものもある。

<2-2> 金沢高専に対する好意

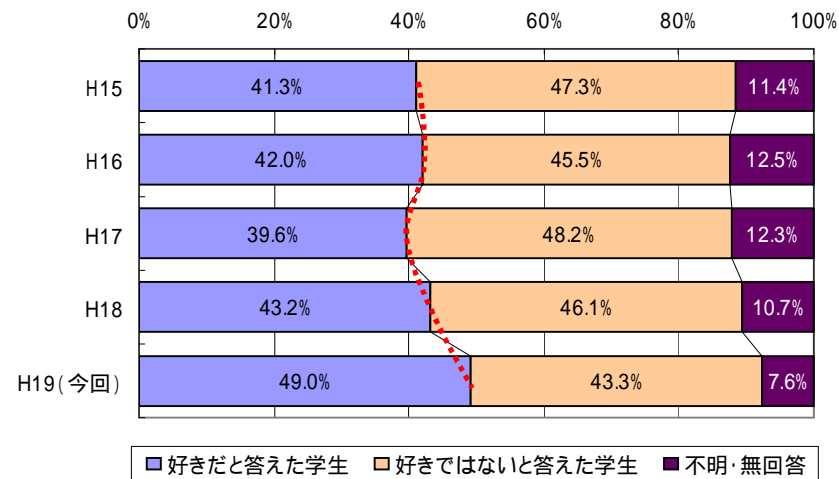
金沢高専に対する好意

- 「金沢高専が好きですか？」という質問に対しては「そう思う」が10.8%、「どちらかといえばそう思う」が38.2%であり、合わせると49.0%の学生が金沢高専に好意を持っていることが確認できた。そして、「好きだと感じていない学生」は残念ながら43.3%もいるが、「好きだと感じていない学生」の方が5.7ポイント多かった。
- この質問はH15から継続しているが、その経年変化を見るとH15からH17まではほとんど変わらず、「好きではないと答えた学生」の方がやや多かった。しかし、H18に「好きだと答えた学生」がやや増加して、今回のH19には「好きだと答えた学生」の割合が前年を5.8ポイント上回って今までで最も多くなり、「好きだと答えた学生」の割合の方が多くなるという結果であった。
- 満足度でも過去3年間継続的に上がっていたが、好意も上がってきており、2つの指標共に良くなっていることから、全体として良い状態にあると言って良いものと思われる。

金沢高専が好きですか？



金沢高専への好意 年度別比較



金沢高専への好意 年度別内訳

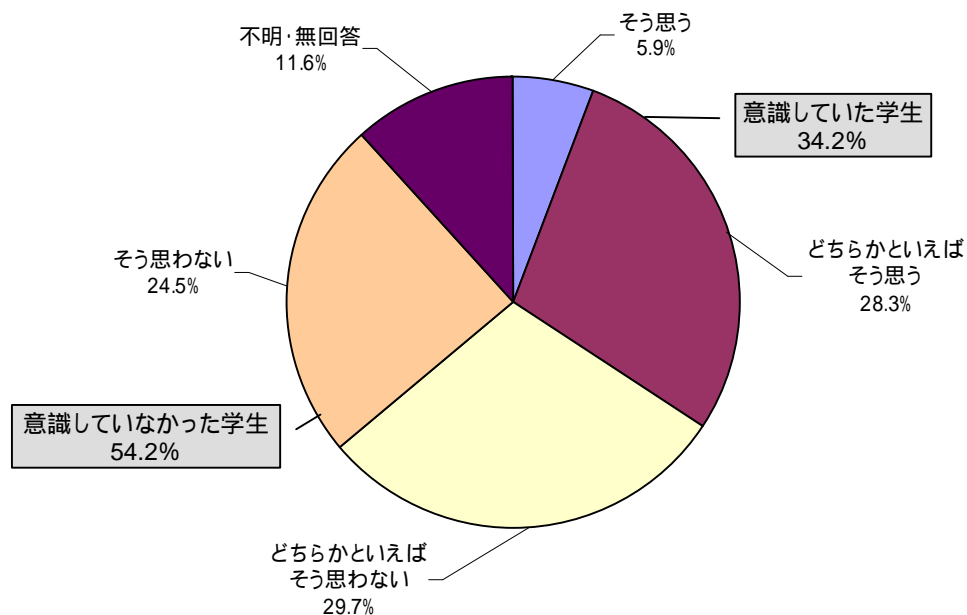
年度	好きだと答えた学生の合計		好きではないと答えた学生の合計
H15	41.3%	<	47.3%
H16	42.0%	<	45.5%
H17	39.6%	<	48.2%
H18	43.2%	<	46.1%
H19(今回)	49.0%	>	43.3%

< 2-3 > 「私の目標」に関して

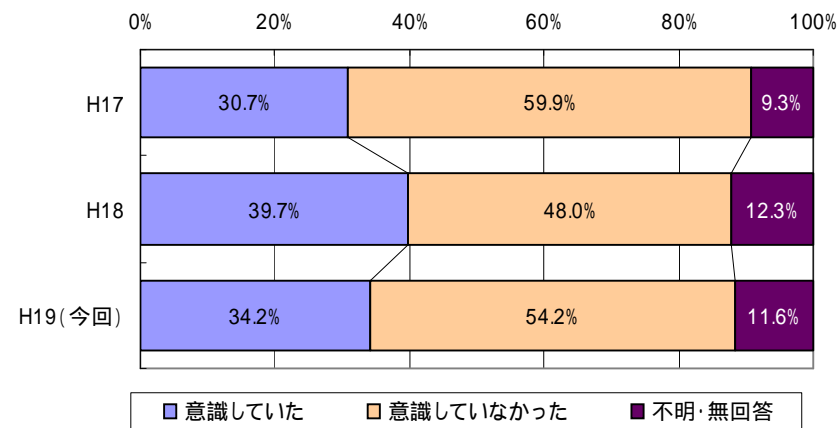
「私の目標」の意識に関して

- 「私の目標」を意識して過ごすことができましたか？という質問に対しては、5.9%が「そう思う」と答えており、28.3%の「どちらかといえばそう思う」と合わせると34.2%は「私の目標」を意識して過ごしていたようであり、過半数の54.2%は意識していなかったようであった。
- 経年変化を見るとH17からH18にかけては「意識していた」という学生が増加していたが、その後H19にかけては減少していた。「満足度」や「好意」は年々良い状態になっていたが「私の目標」は異なっていた。
- 意識していた学生と意識していなかった学生の割合比較では、常に意識していなかった学生の割合の方が高く、H19には20ポイント上回る結果となっていた。

「私の目標」を意識して過ごすことができましたか？



「私の目標」の意識 年度別比較



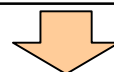
「私の目標」の意識 年度別内訳

年度	意識していた		意識していなかった
H17	30.7%	<	59.9%
H18	39.7%	<	48.0%
H19(今回)	34.2%	<	54.2%

< 2-4 > 基本的な指標に関するまとめ

基本的な指標に関するまとめ

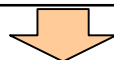
	概要	経年変化	学年比較	学科比較	その他
満足度	<ul style="list-style-type: none"> 50.6%が金沢高専に満足しており、不満足が43.0%を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 満足している学生はH17より2年連続で増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生と4年生が逆転していたが、それ以外は高学年ほど満足度が高い。 3年生の満足度の低さが特徴的であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 満足している学生は「機械工学」が55.2%と最も多い。 「電気情報」と「国際コミ」では満足している学生の割合はほぼ一緒であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「国際コミ」は年々満足している学生が増加している。 「電気情報」はH18からH19にかけて増加していたが「機械工学」は減少。
好意	<ul style="list-style-type: none"> 好きだと感じている学生が49.0%、好きだと感じていない学生が43.3%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> H18、H19と連続で好きだと感じている学生が増加。 過去5回の調査ではじめて好きだと感じている学生の割合が上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 高学年ほど好きだと感じている学生が少なかった。 3年生は満足している学生は少ないが、好意を持っている学生はやや多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「機械工学」で好意を持っている学生が最も多い。 「電気情報」と「国際コミ」は似た構成で、好きではないという学生の方が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 「国際コミ」は年によって好意に大きな変動が見られ、「電気情報」もやや差が見られた。
私の目標	<ul style="list-style-type: none"> 「私の目標」を意識していた学生は34.2%であり、意識していなかった学生の54.2%を大きく下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> H17からH18にかけては意識している学生が増加していたが、今回は減ってH17と同じ程度となっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 意識している学生の割合は3年生が最も高かった。 次いで2年生、1年生、5年生、4年生という順であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 意識していた学生の割合は「機械工学」が最も低く、「電気情報」「国際コミ」は同程度であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の指標では高学年ほど意識が低く「機械工学」が高いという傾向が見られたが、「私の目標」は異なる傾向であった。
分野別達成度	<ul style="list-style-type: none"> 最も達成度が高いのは「課外活動」で「資格取得面」の達成度が低かった。 「課外活動・クラブ活動面」は達成度の高い層と低い層の二極化が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学習面」は達成度が低い層の割合は変わらないが、高い層が減少していた。 「資格取得面」も中間層が増加し、高い層の減少が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学習面」「資格取得面」では3年生の達成度の高さが目立っていた。 「課外活動・クラブ活動面」でも3年生が高いが、1年生も高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学科による差はそれほど大きくなかった。 「資格取得面」で「機械工学」がやや低めであった。 	<ul style="list-style-type: none"> 経年変化では良い方向に変化しているとは言えない。 3年生の達成度の高さが目立っていた。



- ◆ 「満足度」「好意」共にポジティブな意見の方が多かった。両者共にポジティブな意見の方が多かったのは調査開始から初めてであり、この数値を見る限り良い方向に向かっていると言える。
- ◆ 3年生が特徴的であり、「満足度」はやや低めであるが学校に「好意」を持っている学生が多く、分野別の達成度は非常に高かった。
- ◆ 「機械工学」は「満足度」が高く「好意」も高いが、「私の目標」への意識は低かった。一方、「電気情報」「国際コミ」は「満足度」と「好意」はやや低い「私の目標」の意識は高かった。そして「国際コミ」は年々満足している学生が増加しており、良い状況にあると言える。
- ◆ 分野別の達成度は年々低下する傾向が見られた。達成度が低い層が増加しているわけではないのでそれほど深刻ではないと思われるが、高い層が減少して中間層が増加しており、達成の質がやや低下していると言える。

同一学生群の比較に関するまとめ

	満足度変化	好意変化	総合評価
現2年生	<ul style="list-style-type: none"> □ 1年生時点の満足度が非常に高く、2年生で下がったとはいえ、これまでの学生群で最も高い。 □ 特に「国際コミ」の満足度の高さが目立ち、2年生になって更に上がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 好意も1年生の段階で非常に高く、2年生で下がっているが、他と比べるとまだ高い状態。 □ 「国際コミ」の高さが目立っている。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 1年生の段階での満足度と好意が高く、2年生でも保っており、良い状態の学生群と言える。 □ 特に「国際コミ」が良い状態にあると思われ、今後の変化を注目したい学生群と言える。
現3年生	<ul style="list-style-type: none"> □ 1年生の時点から学年が上がるほど満足度は徐々に低下している。 □ 「電気情報」は2年生時点で満足度が大きく低下して3年生で回復しており、逆に「国際コミ」は2年生で向上して3年生で大きく落ち込んでいた。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 1年生時点から2年生にかけて低下したが、3年生で向上し、3年生時点では他の学生群にはない高さとなっている。 □ 満足度と同様に「電気情報」は2年生で低下し、「国際コミ」は2年生で向上する結果であった。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 好意が3年生で大きく上がっている点が目立っており、全体としては良い状態にあると言える。 □ 学科としては「国際コミ」が3年生になって良くない状態になっており、「電気情報」は良い状態となっているようであった。
現4年生	<ul style="list-style-type: none"> □ 2年生時点での満足度はそれほど高くはないが、3年生、4年生とわずがずつ上昇している。 □ 「国際コミ」は3年生時点で満足度が大きく低下していたが、他は横這い傾向であった。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 好意は1年生時点から見ているが、2年生で低下し、その後は横這い状態であった。 □ 「機械工学」の好意が高いが、変化は学科による差がなく、同じような変化であった。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 1年生から2年生にかけては低下しているが、その後は横這い状態で、良い状態を維持している。 □ 「国際コミ」が3年生時点で少し状態が悪くなったが、学科間の差は少なく、学年としてまとまっていると言える。
現5年生	<ul style="list-style-type: none"> □ 3年生時点の満足度は非常に低かったが、徐々に上がってきている。 □ 「国際コミ」の満足度が非常に低く、特に3年生、4年生の時点では悪い状態であったと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 1年生の時点で好意は低く、高学年でわずかに低下していたが、5年生で回復していた。 □ 「国際コミ」の好意が3年生時点で一気に低下し、5年生でやや回復していた。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 現5年生は比較した学生群の中では最も課題を持っている学生群ではないかと思われるが、5年生になってやや回復が見られる。 □ 「国際コミ」の満足度、好意の低さが目立った。
H18卒業生	<ul style="list-style-type: none"> □ 満足度のデータはなし 	<ul style="list-style-type: none"> □ 2年生以降、非常に好意が高く、高学年でもそれほど低下していない。 □ 「機械工学」は2年生時点から卒業まで、継続的に好意が増しており、強い好意を持っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 全体としては5年生時点の好意が最も高い学生群であったが、その高さは「機械工学」の高さが牽引していると言える。 □ この学生群の「機械工学」は学級の雰囲気形成の参考になると思われる。
H17卒業生	<ul style="list-style-type: none"> □ 満足度のデータはなし 	<ul style="list-style-type: none"> □ 好意はそれほど高くないが、3年生以降で下がることもなく、5年生まで横這いであった。 □ 「機械工学」は3年生から5年生まで継続的に好意が増していた。 	<ul style="list-style-type: none"> □ それほど大きな特徴は見られないが、3年生以降で横這いを続ける傾向は確認できた。



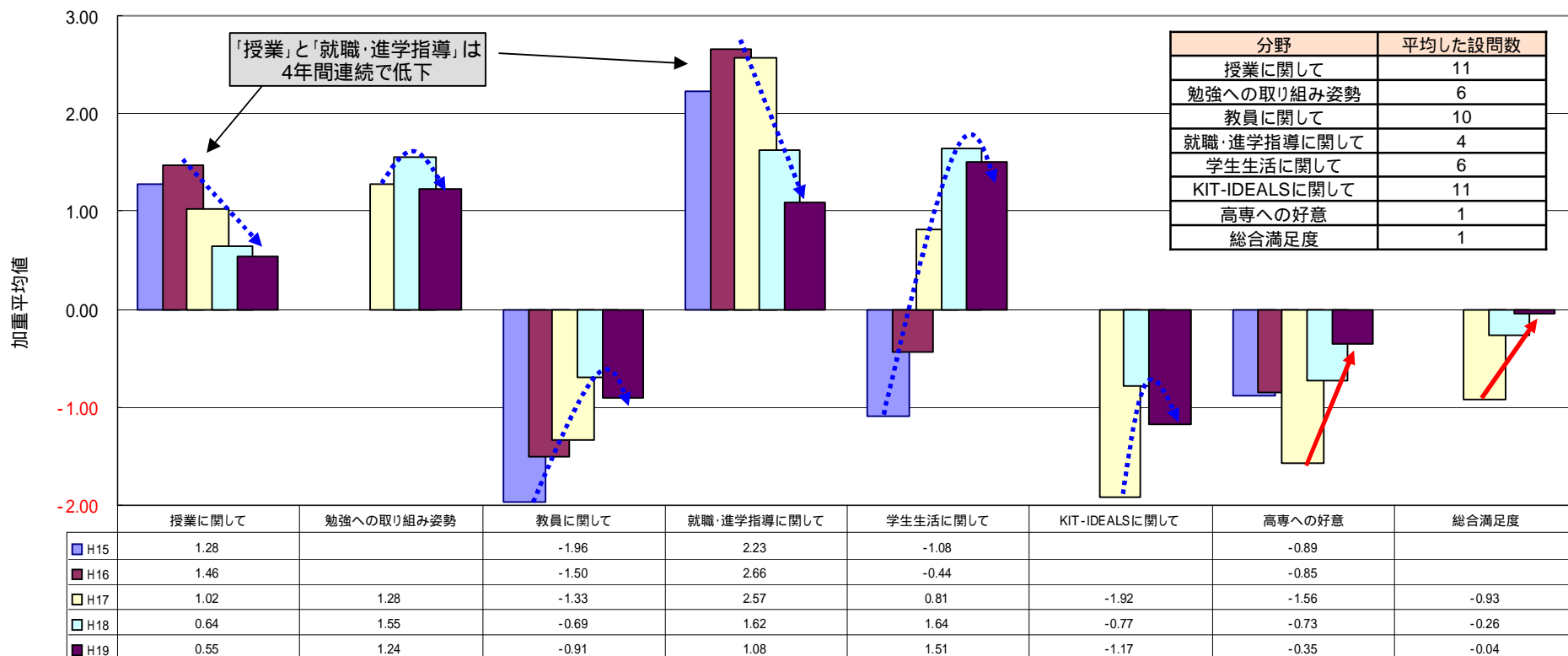
- ◆ 「現2年生」と「現3年生」はデータ量が少ないが低学年時点で非常に充実している。特に「現2年生」の「国際コミ」の良さが目立っていた。
- ◆ 「現4年生」は学科間の差も少なく学年としてまとまっている様子がうかがえ、「現5年生」は比較した学生群の中では最も課題を持っている学生群ではないかと思われる。特に「現5年生」の「国際コミ」の低さが目立っていた。
- ◆ 「H18卒業生」は卒業時点で非常に良い状態にあったと思われる。特に「機械工学」のクラスの雰囲気形成は参考になるものと思われる。

< 3-1 > 全体傾向の経年変化

全体の傾向

- 今回の調査では各質問毎に加重平均を算出して分析しているが、各分野毎にそれらの加重平均の平均を算出して、どのような経年変化があるかを確認した。分野毎に設問数が異なり、計算も加重平均の更に平均となるため特徴が分かりにくくなるが、全体の大まかな把握のため参考になるものと思われる。
- まず、ここまで見ているように「総合満足度」と「好意」は加重平均ではマイナスであるものの3年連続で向上している。しかし他の指標はH18からH19にかけて残念ながら全て下がっていた。
- 特に「授業」と「就職・進学指導」はH16から継続的に低下してきており、注意が必要と言える。
- また、「勉強への取り組み姿勢」「教員」「学生生活」「KIT-IDEALS」の4項目は前回まで改善傾向にあったが、今回はいずれもわずかずつではあるが低下し、同じような傾向となっていた。
- 全体の傾向では「好意」「満足度」の向上と他の項目の評価低下という矛盾した結果となっており、この解釈は非常に難しいと言え、今回の課題になると思われる。

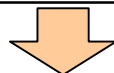
各分野別の加重平均の平均 年度別比較



< 3-2 > 全体傾向に関するまとめ

全体傾向に関するまとめ

	全体傾向	良い点	良くない点・課題
年度別	<ul style="list-style-type: none"> □ 「好意」と「満足度」以外の各分野別のスコアは全て前年よりも低下していた。 □ 「好意」と「満足度」の変化と矛盾した結果であり、この解釈は今後の課題と言える。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 前年より良くなっている分野はなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「授業」「就職・進学指導」はH16から継続的に低下しており、注意が必要と言える。 □ 「勉強」「教員」「学生生活」「KIT-IDEALS」は前回まで改善傾向にあったが、今回はわずかずつではあるが全て低下していた。
学年別	<ul style="list-style-type: none"> □ 全ての項目で1年生のスコアが最も高く、5年生が最も低いという傾向にあった。 □ 高学年ほど低いというものではなく、5項目で「3年生」よりも「2年生」が低い傾向が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「2年生」との相对比较になるが、「3年生」の評価がやや高めであった。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「授業」「勉強への取り組み」「教員」「学生生活」「KIT-IDEALS」の5項目で「2年生」の低さが目立っていた。 □ また、「教員」の評価で「4年生」「5年生」の評価が厳しく、「5年生」は「授業」も低かった。
学科別	<ul style="list-style-type: none"> □ 多くの項目で「機械工学」のスコアが最も高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「機械工学」は「好意」「満足度」も含めて6項目でスコアが最も高かった。 □ 「電気情報」は「就職・進学指導」で最も高く、「国際コミ」は「KIT-IDEALS」が高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「教員」と「学生生活」に関して「電気情報」が非常に厳しい評価をしていた。 □ 「国際コミ」は「就職・進学指導」に不満を持っているようであった。
同一学生群	<ul style="list-style-type: none"> □ 「授業」「勉強への取り組み」「教員」の評価は連動しているようであり、高学年ほど低下する傾向が見られた。 □ 「学生生活」と「好意」も連動していそうであった。 □ 学生群によって異なるが、「満足度」は「授業」などとの連動、「学生生活」などとの連動の2つのパターンが見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「学生生活」に関しては学年が変わっても変化せず、一定であるケースが多く見られた。そして、これと連動する「好意」も一定のケースがあった。 □ 中には向上するケースも見られ、同一学生群の中での「学生生活」は学年が上がっても悪化することなく、5年間ほぼ安定しているようであった。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「授業」「教員」の評価は例外はあるが高学年ほど低下する傾向が見られた。この低下の大きさはまちまちであるが、高学年になるほどゆるやかになる傾向も見られた。 □ これと連動して「勉強への取り組み」も高学年ほど低下する傾向が見られた。

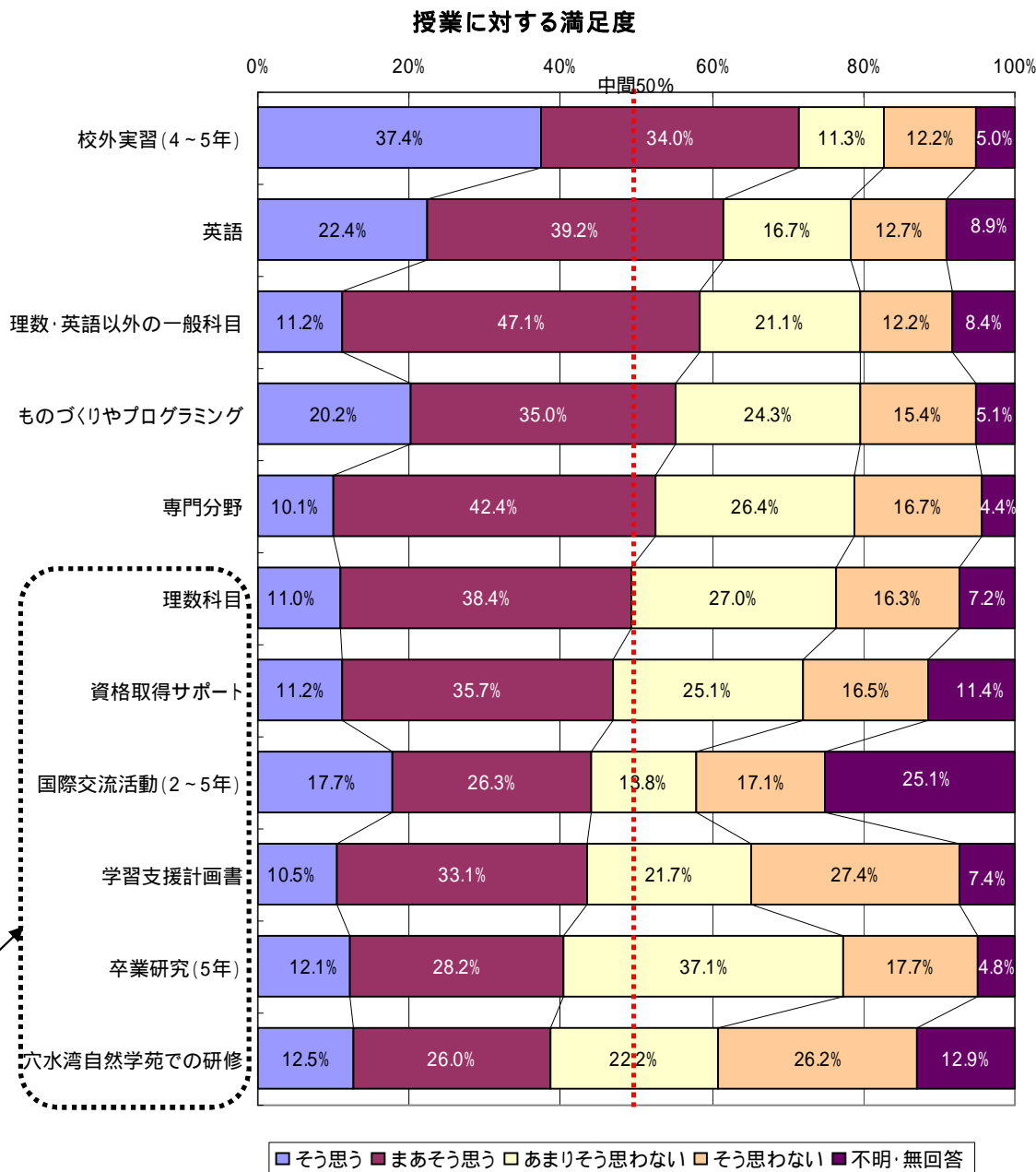


- ◆ 「好意」と「満足度」は年々良くなっているが、分野別の評価を見ると全ての面で以前より低下しており、「授業」「就職・進学指導」はH16から継続的にスコアが下がっていた。これには注意が必要であり、要因を探ることが今後の課題になると思われる。
- ◆ 学年では「2年生」の低さが目立っており、学科では「機械工学」が高い分野が多かった。そして、「電気情報」は「教員」と「学生生活」のスコアが低く、「国際コミ」は「就職・進学指導」に不満を持っているようであった。
- ◆ 「授業」と「教員」「勉強への取り組み」の評価は連動して、高学年ほど低下しているが、低下は高学年ほど緩やかになっているようであった。
- ◆ 「学生生活」の評価は学年が変わってもあまり変化せず、1つのクラスとして雰囲気が悪くなることなく5年間を過ごしているようであった。そして、「好感」がこれに連動しており、学生群によっては「好感」「学生生活」のスコアアップと全体の「満足度」が連動しているケースも見られた。

< 4-1 > 授業に関して

授業評価の全体像

- 授業の各項目の満足度をパーセンテージで比較し、「そう思う」と「まあそう思う」の合計で並べた。
- 最も評価が高かったのは「校外実習」であった、これは4～5年生のみの評価であるが、71.4%が満足していた。
- 次に、「英語」(61.6%)、「理数・英語以外の一般科目」(58.3%)、「ものづくりやプログラミング」(55.2%)、「専門分野」(52.5%)と続いており、ここまでの5科目は満足しているという回答が5割を超えていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「穴水湾自然学苑での研修」であり、「卒業研究」「学習支援計画書」などの評価が低めであった。
- 「そう思う」の割合を見ると、「ものづくりやプログラミング」は満足している層が多めであり、この授業内容が気に入っている特定の層がありそうであった。また、「国際交流活動」は不参加者が「その他・無回答」となっていることもあると思われるが、「そう思う」が多めであり、ここにも強く満足している層がいそうであった。

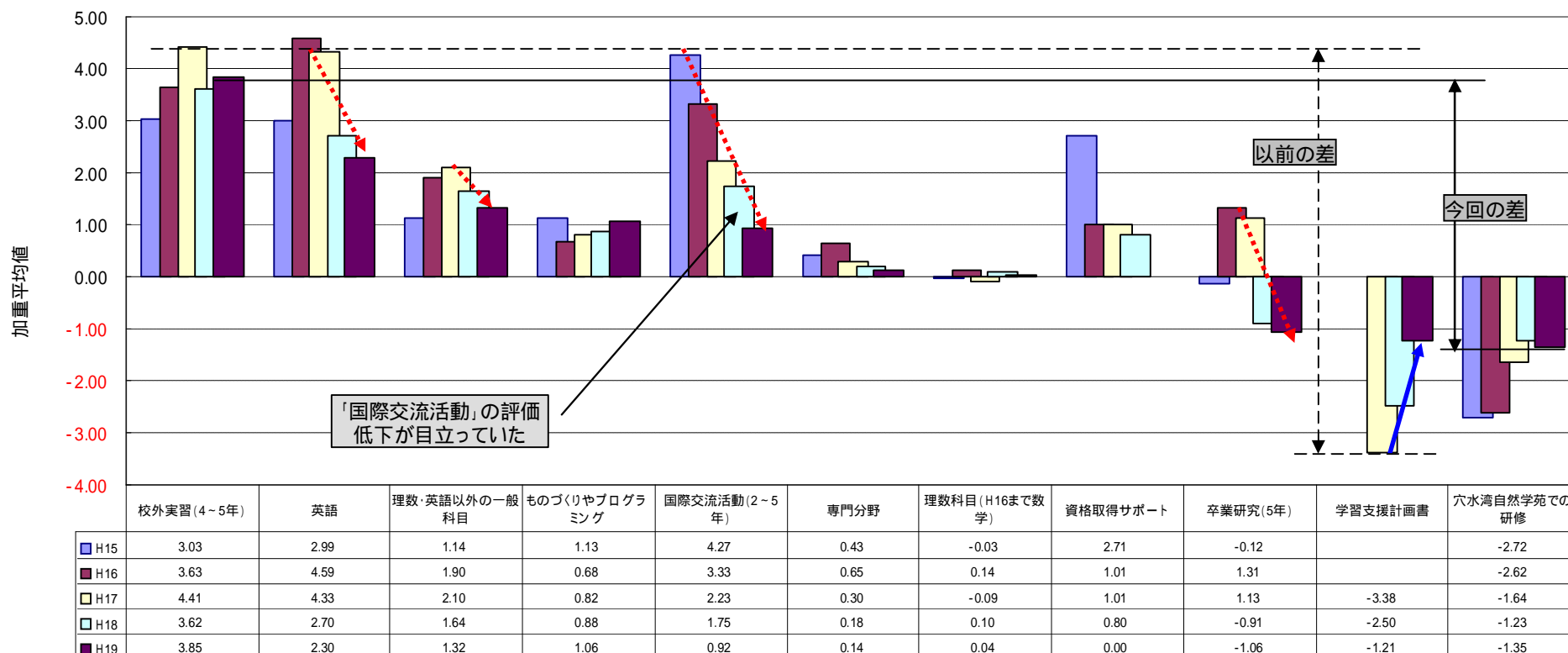


満足しているという意見が半数以下だったもの

授業評価の年度別比較

- 授業の満足度に関して、過去5年間を加重平均で比較した。グラフはH19の加重平均でソートしている。
- 全体を見て気が付くのは、以前は加重平均値の高い科目と低い科目の間に大きな差が見られ、最も差の大きいH17には7.79点の差があったが、今回は5.2点と差が少なくなっていた。これは授業の間の評価の差が小さくなっているためである。
- 前年より大きく評価が上がっていたのは「学習支援計画書」だけであったが、これはH17より継続的に良くなってきており、改善が行われているものと思われる。
- 一方、低下が目立っていたのは「英語」「理数・英語以外の一般科目」「国際交流活動」「卒業研究」の4つであった。この4つは以前より継続的に低下している。特に「英語」「国際交流活動」の2つは以前と比べると大きく低下しており、何らかの要因があるものと思われる。
- 「校外実習」「ものづくりやプログラミング」はわずかではあるが前年よりスコアが上がっており、満足度の向上があるようであった。

授業評価 年度別比較

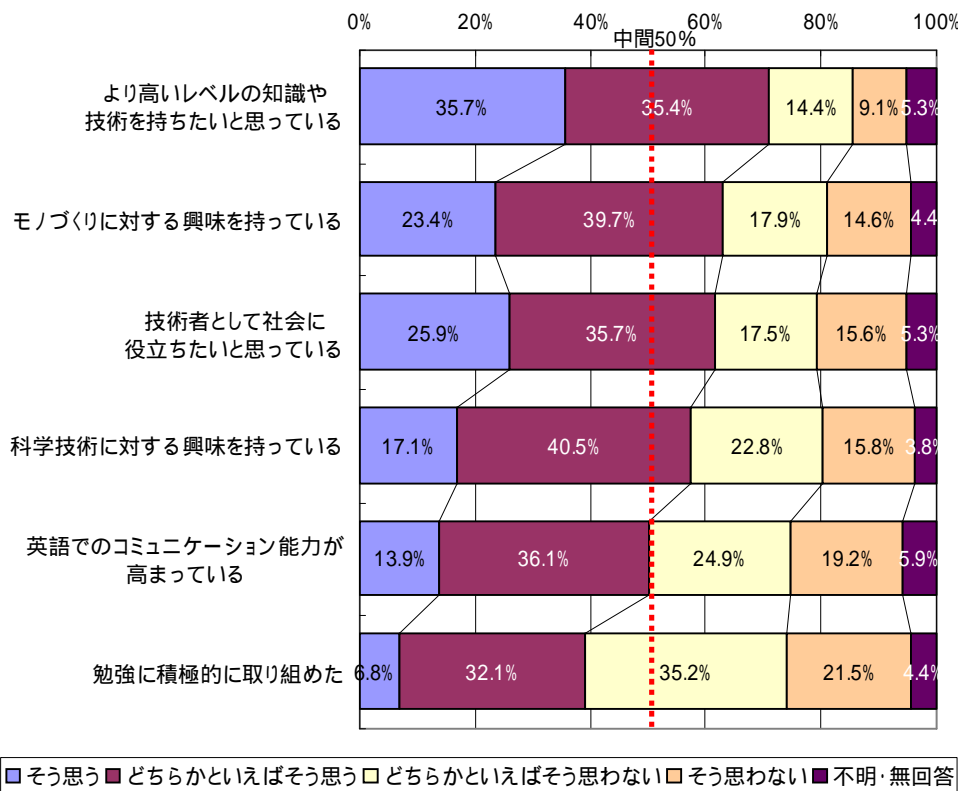


< 4-2 > 勉強への取り組み姿勢に関して

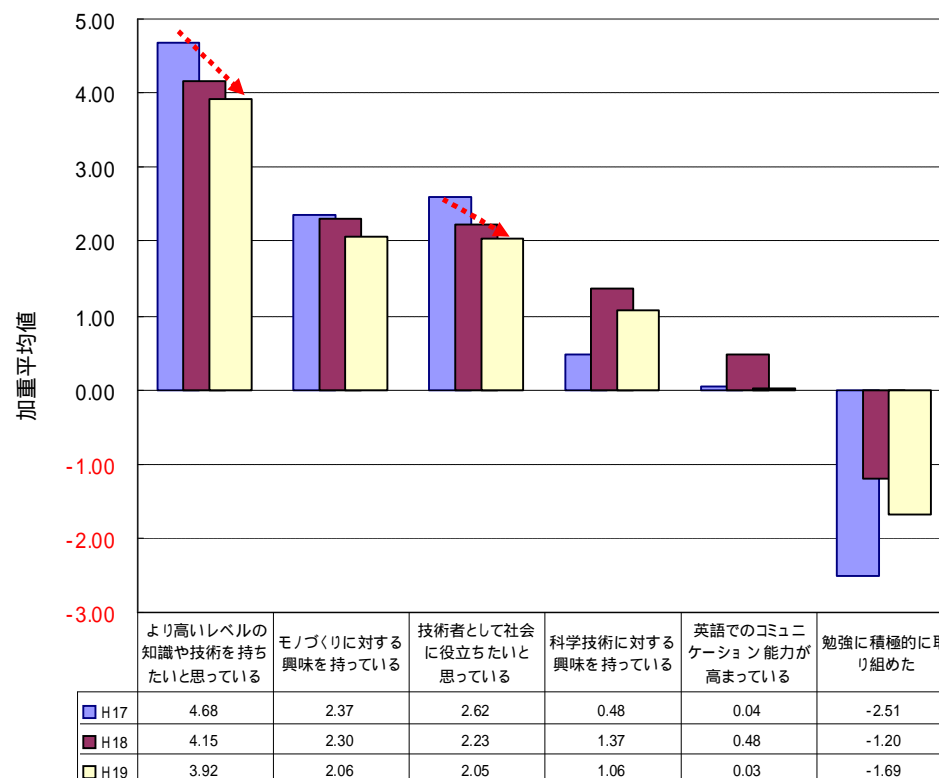
勉強への取り組み姿勢

- 勉強への取り組み姿勢の6項目に対してはいずれも積極的な意見が多く見られたが、最も多かったのは「より高いレベルの知識や技術を持ちたい」であり、71.1%の学生がそのような考えており、最も強い要望は知識や技術を身につける事であることが分かった。
- 次に、「モノづくりに対する興味を持っている」「技術者として社会に役立ちたいと思っている」が続いていた。
- 逆に低かったのは「勉強に積極的に取り組めた」「英語でのコミュニケーション能力が高まっている」などであり、実際に自分に力がついたとは感じられないようであり、これらを実感させることが重要と言える。
- 経年変化を見るとそれほど大きな変化は見られなかったが、全ての項目がH18よりも低下しており、意識としては全体的に低下していた。
- 特に「より高いレベルの知識や技術を持ちたいと思っている」「技術者として社会に役立ちたいと思っている」という2項目はH17より継続的に低下しており、これらの意欲は低下しているようであった。

勉強への取り組み姿勢



勉強への取り組み姿勢 年度別比較

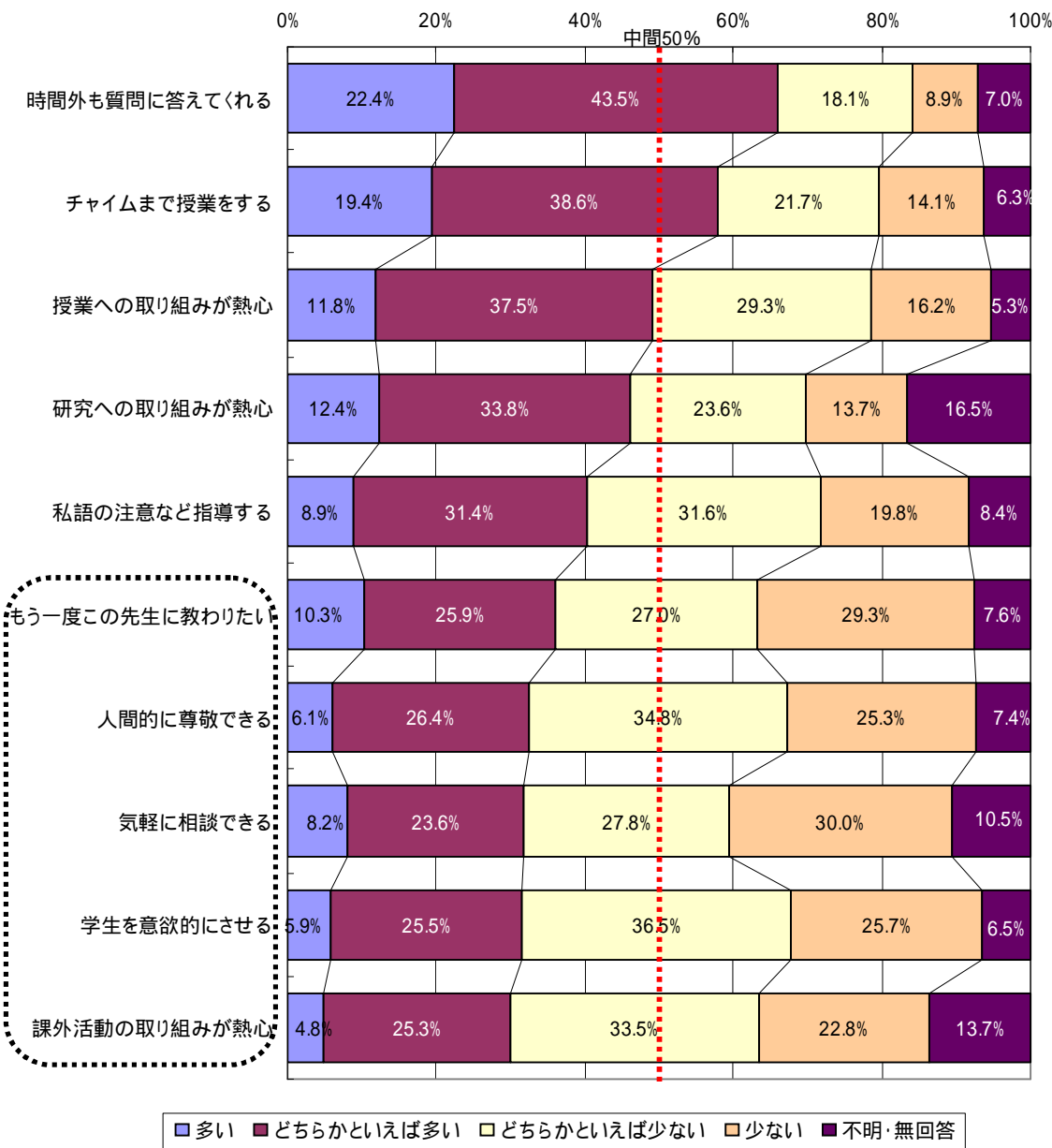


< 4-3 > 教員に関して

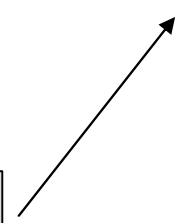
教員に対する評価

- 教員に対する評価は、学生に対して「**のような先生は多いと思いますか？**」と聞いている。
- 最も評価が高かったのは「**時間外も質問に答えてくれる**」であり、65.9%がそのような先生は多いと思っているようであった。
- 次いで「**チャイムまで授業をする**」「**授業への取り組みが熱心**」「**研究への取り組みが熱心**」などの評価が高く、授業にしっかり取り組んでいると評価を受けていた。
- 逆に評価が低かったのは「**課外活動の取り組みが熱心**」であった。次いで「**学生を意欲的にさせる**」「**気軽に相談できる**」「**人間的に相談できる**」が続いており、授業以外の面でやや不満を持っているようであった。

教員の評価



やや少なめの項目であり、今後の課題となる点

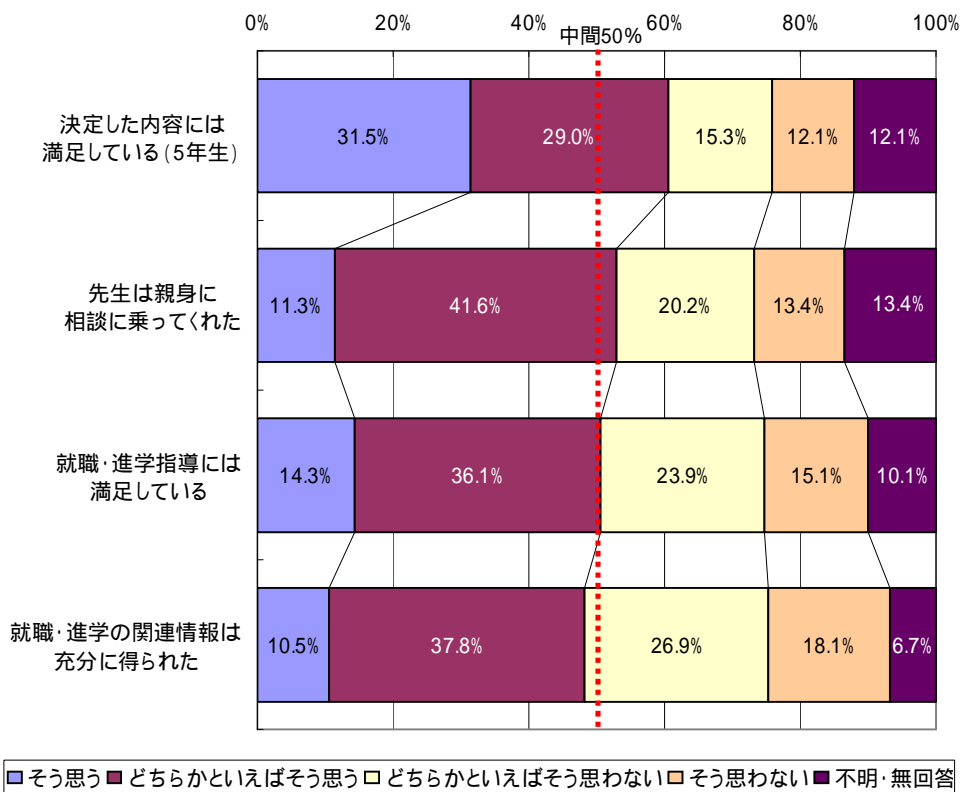


< 4-4 > 就職・進学指導に関して

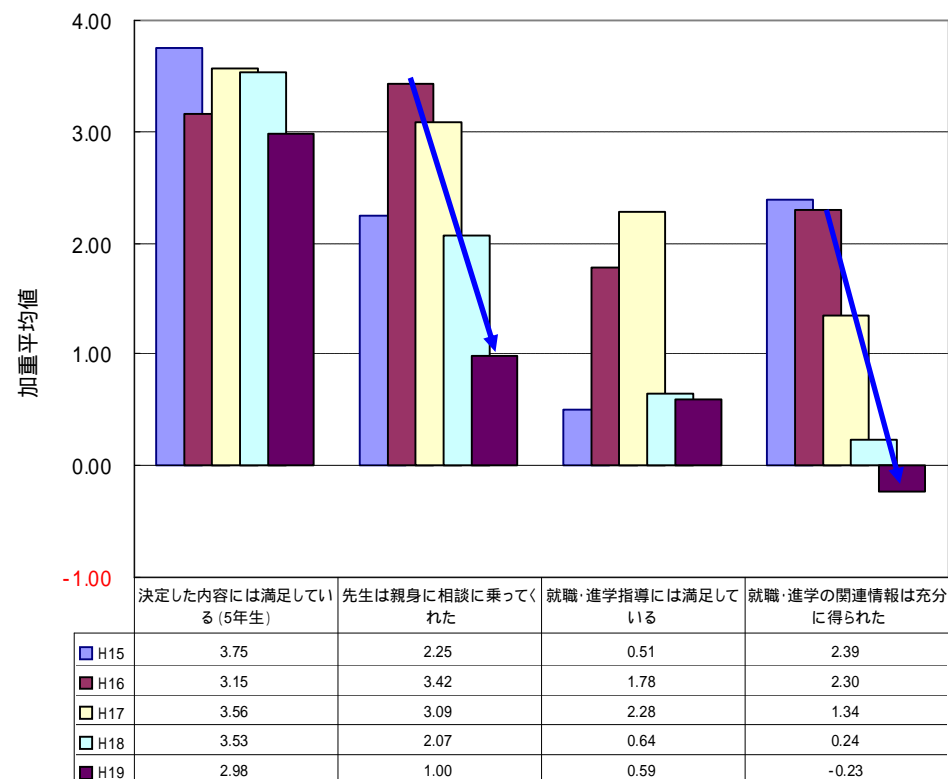
就職・進学指導に関して

- 就職・進学指導に関しては「4年生」と「5年生」だけに聞いているが、最も満足度が高かったのは「5年生」だけに聞いた「決定した内容には満足している」であり、60.5%が満足していた。
- 次いで「先生は親身に相談に乗ってくれた」「就職・進学指導には満足している」が続いており、ここまでは5割以上が満足していた。
- 不満が多かったのは「就職・進学の関連情報は十分に得られた」であり、情報不足を感じているようであった。
- 昨年と比較すると「就職・進学指導には満足している」はほぼ横這いであったが、その他は大きく低下していた。
- 「決定した内容には満足している」という点は重要な指標であるが、H18から低下しており、大きな課題があると言える。
- 「先生は親身に相談に乗ってくれた」「就職・進学の関連情報は十分に得られた」の2つは継続的に満足度が低下しており、何らかの対策が必要と思われる。これらの満足度の低下が全体の満足度を引き下げているとも考えられる。

就職・進学指導の評価



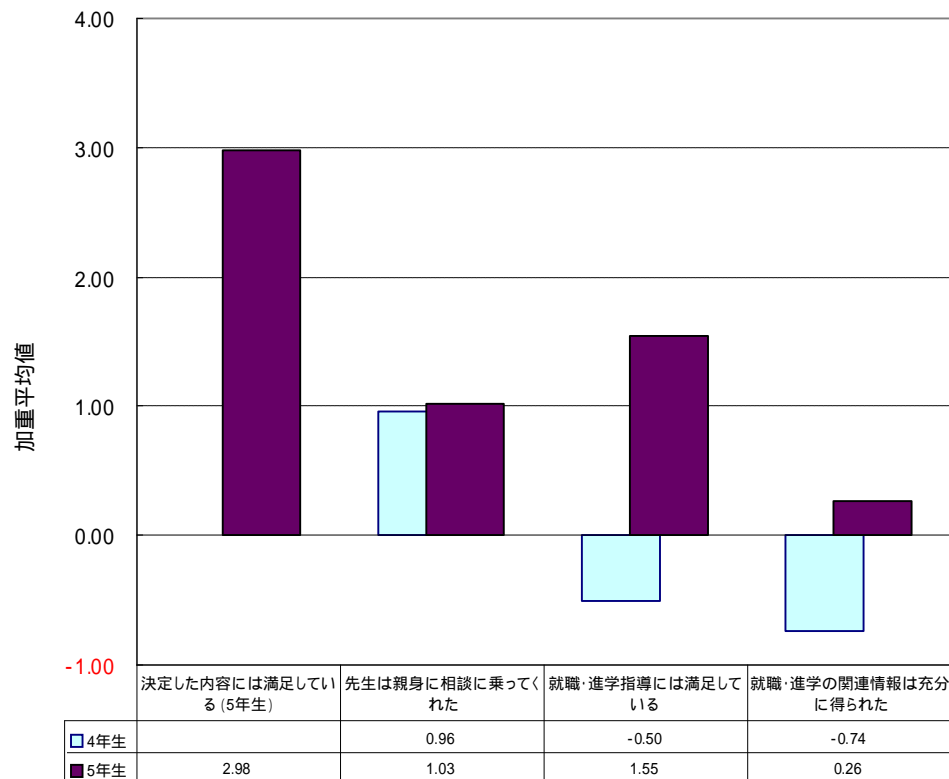
就職・進学指導の評価 年度別比較



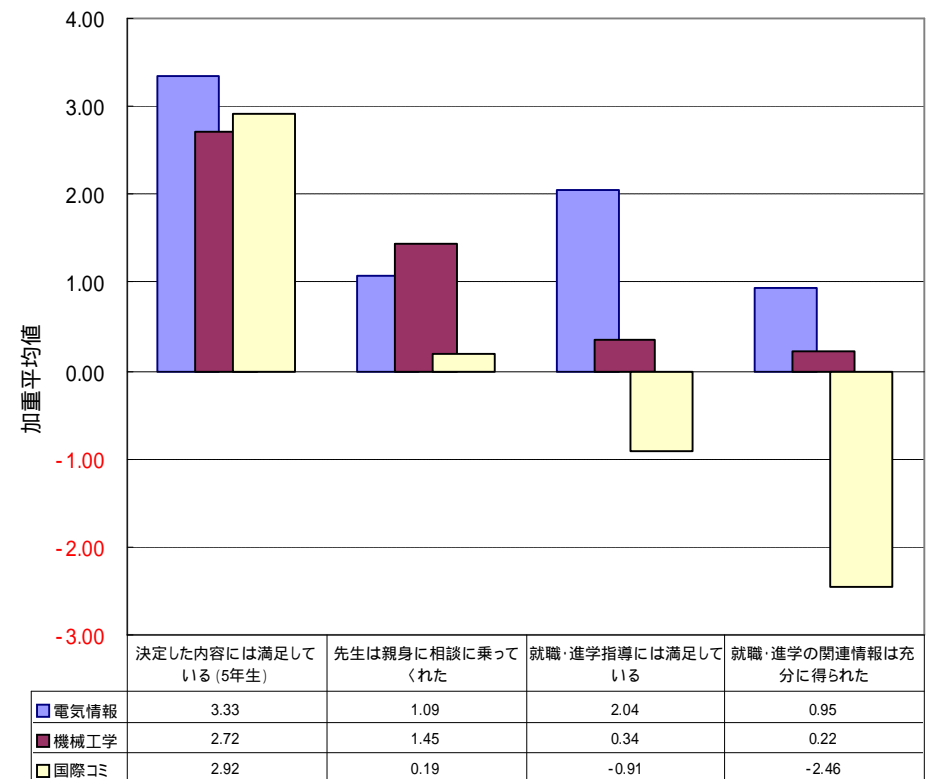
学年別比較と学科別比較

- 学年別比較は2学年だけの比較であるが、全ての面で5年生の満足度の方が高かった。5年生はある程度方向が見えているために安心感があるためこのような差が出たと思われるが、「就職・進学に関連情報は十分に得られた」という点に関しては、「4年生」の不満に対する対策も打てると思われるため、早急な対策を打つべきであると言える。
- 学科別比較で目立ったのは「国際コミ」の低さであった。「決定した内容には満足している」は2番目であったが、その他は全て最低であり、「就職・進学指導には満足している」「就職・進学に関連情報は十分に得られた」の2項目は3学科の中で唯一マイナススコアとなっていた。「先生は親身に相談に乗ってくれた」も非常に低く、「国際コミ」の指導には改善が必要なのではないかと思われた。
- 一方、他の分野では「電気情報」の満足度が低かったがここでは高い項目が多く、「先生は親身に相談に乗ってくれた」だけは「機械工学」の満足度が最も高かったが、それ以外は「電気情報」が最も高く、就職・進学指導に対する満足度の高さがうかがえた。

就職・進学指導の評価 学年別比較



就職・進学指導の評価 学科別比較

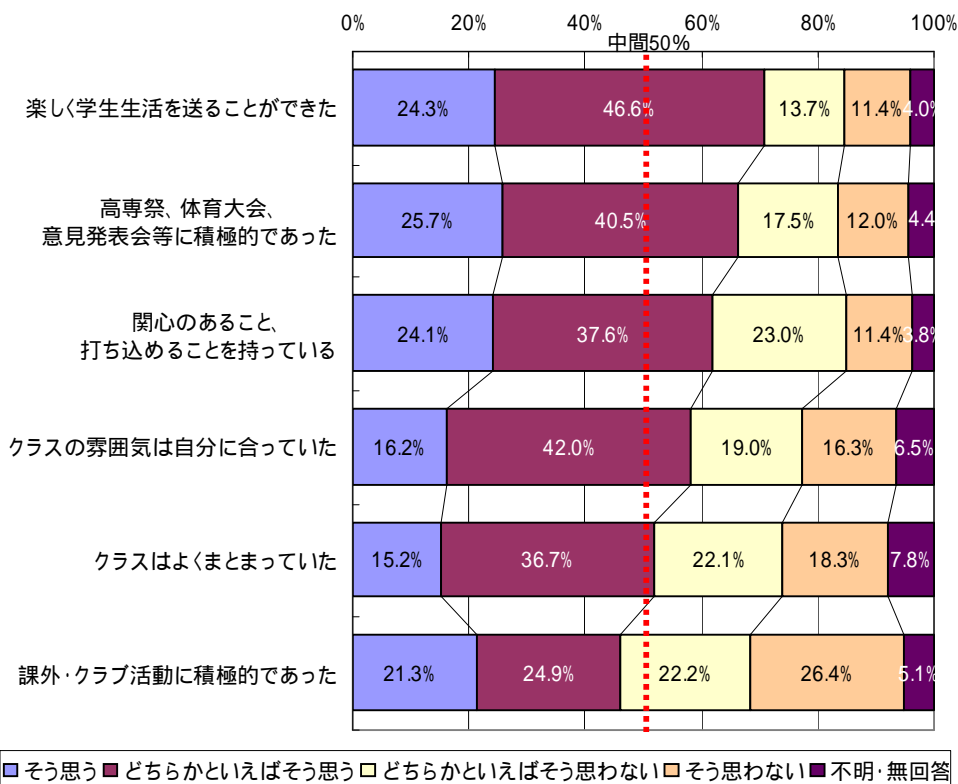


< 4-5 > 学生生活の評価に関して

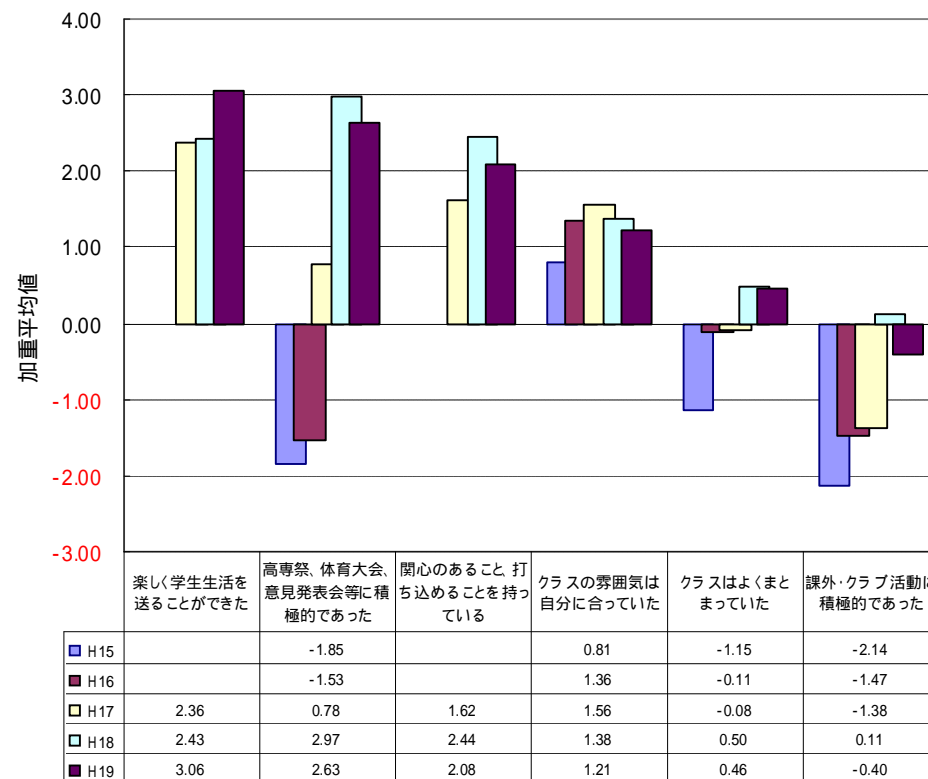
学生生活の評価

- 学生生活で最も満足度が高かったのは「楽しく学生生活を送ることができた」であり、全体の70.9%は楽しい学生生活を送っていると答えていた。今後は残りの3割のフォローが重要となるが、満足度は高いと言える。
- 次に「高専祭、体育大会、意見発表会等に積極的であった」「関心のあること、打ち込めることを持っている」といった点も6割以上の学生がそう思うと答えており、これらの学生は充実した学生生活を送っていると言える。
- 低かったのは「課外・クラブ活動に積極的であった」であるが、これも46.2%がそう思うと答えており、決して低い満足度ではないといえる。
- 経年変化を見ると「楽しく学生生活を送ることができた」はH18よりも大きく上がっており、学生生活は楽しい様子であった。しかし、その他の項目はわずかずつではあるがスコアが下がっていた。特に「課外・クラブ活動に積極的であった」はマイナスに転じており、やや不満層が増加したと言える。
- 「高専祭、体育大会、意見発表会等に積極的であった」「関心のあること、打ち込めることを持っている」の2点のH18からの低下もやや大きかったが、満足度は決して低いものではなく、それほど緊急性があるとは思われない。

学生生活の評価



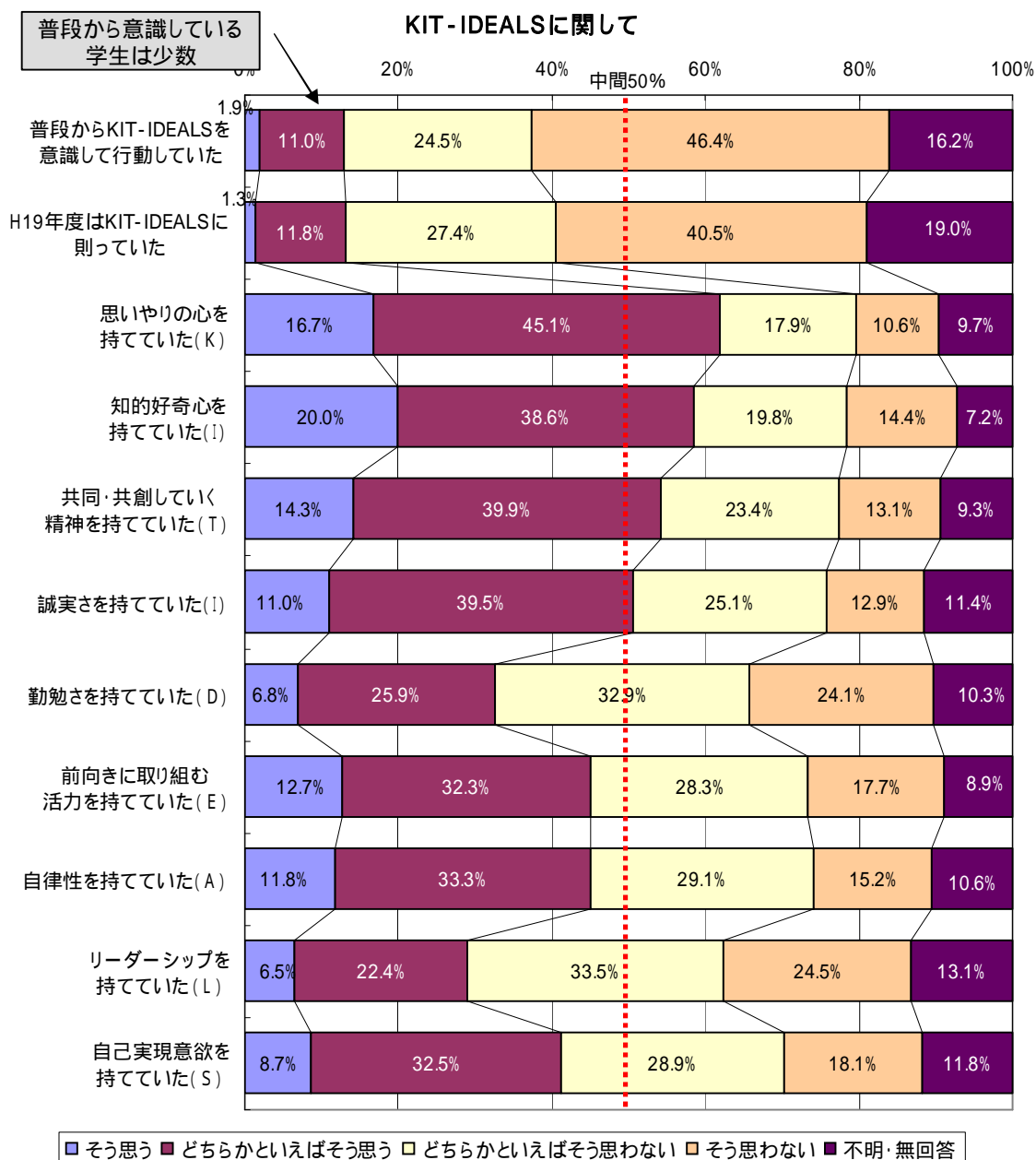
学生生活の評価 年度別比較



< 4-6 > KIT-IDEALSに関して

KIT-IDEALSの全体像

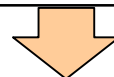
- KIT-IDEALSに関して、まず「普段から意識して行動していた」という設問に関しては12.9%しか意識しておらず、「H19年度はKIT-IDEALSに則っていた」に関しても13.1%しか則っていたと答えておらず、これを見る限りはKIT-IDEALSに対する意識はかなり低いと言わざるを得ない結果であった。
- 個別の項目を見ると、「思いやりの心(K)」「知的好奇心(I)」「共同・共創していく精神(T)」「誠実さ(I)」の4つは持っていたという回答が5割を超えていた。中でも最も高かったのは「思いやりの心(K)」であり、61.8%が持っていたと答えており、これが学生の特徴であるとも言える。
- 一方、低かったのは「リーダーシップ(L)」「勤勉さ(D)」であり、この2つが課題と言える。



< 4-7 > 各分野別分析のまとめ

学校の指導面に関するまとめ

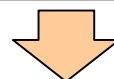
	概要	経年変化	学年比較	学科比較	その他
授業	<ul style="list-style-type: none"> 「校外実習」「英語」「一般科目」の満足度が高かった。 「穴水湾自然学苑での研修」「卒業研究」「学習支援計画書」の満足度が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価の高い授業と低い授業の差が少なくなっていた。 「学習支援計画書」の評価は継続的に上がっていた。 「英語」「一般科目」「国際交流活動」「卒業研究」の低下が目立っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には高学年ほど満足度が低いが、「2年生」と「3年生」の逆転も見られた。 「理数科目」「資格取得サポート」「穴水湾自然学苑」は「3年生」の満足度が最も高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「機械工学」の満足度が高いものが目立ち、特に「ものづくりやプログラミング」の満足度は高かった。 「国際コミ」は「国際交流活動」の満足度は高いが、「理数科目」が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「英語」「校外学習」「国際交流活動」が高い点は、教職員の評価と一致していた。 「穴水湾の研修」「学習支援計画書」の評価が低い点は教職員の評価と一致していた。
教員	<ul style="list-style-type: none"> 「時間外も質問に答える」「チャイムまで授業」「授業への取り組みが熱心」など、授業にしっかり取り組んでいるという評価であった。 「課外活動への取り組み」「学生を意欲的にさせる」など、授業以外の面で教員に不満があった。 	<ul style="list-style-type: none"> H18と比べてそれほど大きく変わっているものはなかった。 「もう一度教わりたい」「尊敬できる」「気軽に相談できる」などは継続的に良くなっており、コミュニケーション面の評価が上がっていると言える。 	<ul style="list-style-type: none"> やはり「2年生」よりも「3年生」の方が高い評価をしているものが多かった。「2年生」はコミュニケーション面にやや不満があった。 「5年生」の評価は非常に厳しく、「もう一度教わりたい」は大きくマイナスとなっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「国際コミ」が教員を高く評価している点が目立っており、授業の進め方やコミュニケーション面の満足度が高かった。 「機械工学」は教員に熱心さを感じているようであり、「電気情報」は授業の進め方に不満があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 分野別指標の中では教員評価が学年によって最も大きな差がついており、「1年生」の高さと「4～5年生」の低さが目立っていた。
就職 進学指導	<ul style="list-style-type: none"> 60.5%は就職・進学活動で決まった内容に満足していたが、27.4%は不満を感じていた。 情報が不足していると感じているようであった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「先生は親身に相談に乗ってくれた」「関連情報が十分に得られた」の2点は年々低下しており、注意が必要と言える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「5年生」は活動も進んでいるためか満足度が高く、「4年生」は低かった。 特に「4年生」が情報不足を感じていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「決定内容」の満足度は変わらないが、他では「国際コミ」の満足度が低く、非常に強い情報不足を感じていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 満足度は活動を進める中での情報不足感と連動しているようであり、この部分の対策が重要と言える。



- ◆ 「校外実習」「英語」「一般科目」の満足度が高かったが、経年変化では「英語」「一般科目」の低下が目立っていた。一方、「穴水湾での研修」「卒業研究」「学習支援計画書」の満足度は低かったが、「学習支援計画書」の満足度は前年より大きく上がっていた。
- ◆ 教員に対しては、授業の進め方の評価は高いが、課外活動やコミュニケーション面など、授業以外の評価がやや低めであった。「機械工学」は教員に熱心さを感じており、「国際コミ」は授業の進め方の評価が高かった。
- ◆ 就職・進学指導では情報不足を感じている声が多く聞かれた。しかし、決定した内容には6割が満足していた。「国際コミ」は強い情報不足を感じており、何らかの対策が必要と言える。
- ◆ 基本的には高学年ほど満足度が下がっていたが、「3年生」の満足度は高く、良い状況の学生群であると言える。

学生自身の意識に関するまとめ

	概要	経年変化	学年比較	学科比較	その他
勉強への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> □ 71.1%が「より高いレベルの知識や技術を身につけたい」と答えていた。 □ 高いレベルを望んでいるが、「勉強に積極的に取り組めた」「英語の能力が高まった」などは低く、実態が伴っていないようであった。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 大きな変化は見られなかったが、全ての項目が前年より下がっていた。 □ 「高いレベルの知識や技術を身につけたい」「技術者として社会に役立ちたい」は継続的に低下していた。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 勉強への取り組み姿勢は高学年ほど悪くなっているが、「3年生」が「2年生」を上回るケースが見られた。 □ 「3年生」は勉強にも積極的に取り組めており、良い状態にあると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「機械工学」の高さが目立っており、モノづくりや科学技術への興味が非常に強かった。 □ 「国際コミ」は英語を非常に重要視していることが分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 高いレベルの知識や技術を持ちたいと思っており、モノづくりへの興味などはあるが、積極性が持てているとは言えず、希望と実態が一致していないと言える。
学生生活	<ul style="list-style-type: none"> □ 70.9%は楽しく学生生活を送れたと感じている。 □ 約6割の学生は充実した学生生活を送っているようであった。 □ 「課外・クラブ活動」にも46.2%が満足していた。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「楽しく学生生活を送れた」はH18より大きくアップしており、充実がうかがえる。 □ しかし、その他の項目は全て下がっており、やや不満が増加しているようであった。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「楽しく学生生活を送れた」「高専祭、体育大会」「クラスの雰囲気」「クラスのまとまり」は「2年生」よりも「3年生」の方が高かった。 □ 「4年生」はクラスがよくまとまっているようであった。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「国際コミ」は「高専祭、体育大会」「打ち込めることがある」が高く、学生生活が充実しているようである。 □ 「機械工学」はクラスがよくまとまっているという特徴が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 学生の多くは学生生活が充実しているようであった。 □ 「国際コミ」と「機械工学」の差が現れたのが特徴的であった。
KIT-IDEALS	<ul style="list-style-type: none"> □ 普段からKIT-IDEALSを意識している学生は1割程度であった。 □ 「思いやり」「知的好奇心」「共同・共創の精神」「誠実さ」は持っていた。 □ 「リーダーシップ」「勤勉さ」がやや弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 多くの面で前年より低下していた。 □ 特に「知的好奇心」「誠実さ」「勤勉さ」「前向きな活力」「リーダーシップ」「自己実現意欲」の低下が目立っている。 	-	-	-

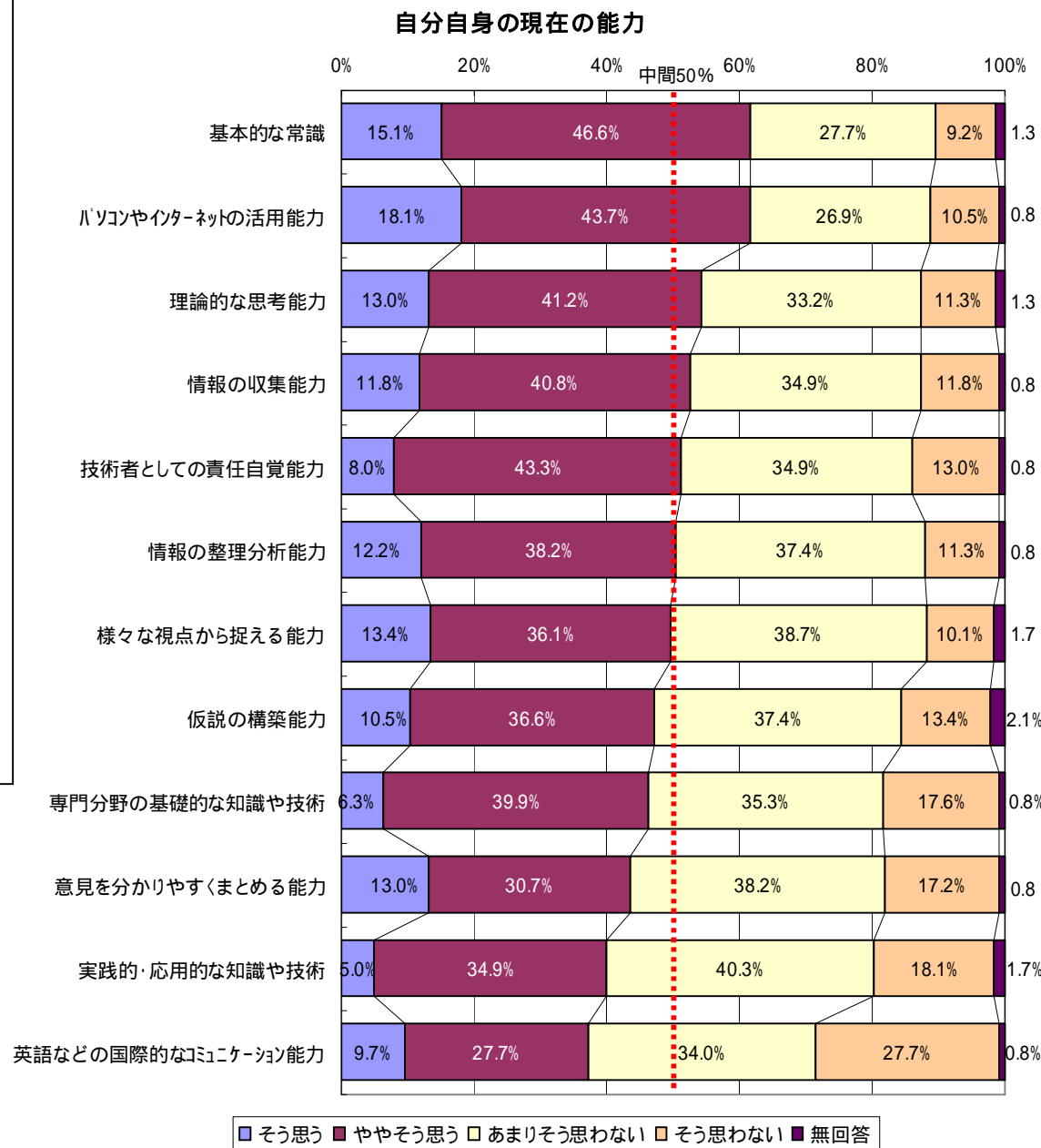


- ◆ 「高いレベルの技術を身につけたい」など、要望は高いものの「勉強に積極的に取り組めた」「英語の能力が高まった」などは低く、高いところに目標を置いているものの実態が伴っていない様子がうかがえた。
- ◆ 7割は楽しく学生生活を送っており、その割合は前年より増加している。そして、6割は充実した学生生活を送っていた。学年別には「3年生」が充実した学生生活を送っており、「4年生」はクラスのまとまりを強く感じているようであった。
- ◆ 学科では「国際コミ」の学生生活が充実しており、「機械工学」でクラスがよくまとまっている様子がうかがえた。
- ◆ KIT-IDEALSは意識している学生が1割と少なかった。「思いやり」「知的好奇心」「共同・共創の精神」「誠実さ」は持っていたが、「リーダーシップ」「前向きな活力」が持ていないと自己診断していた。

< 5-1 > 学生の能力に関して

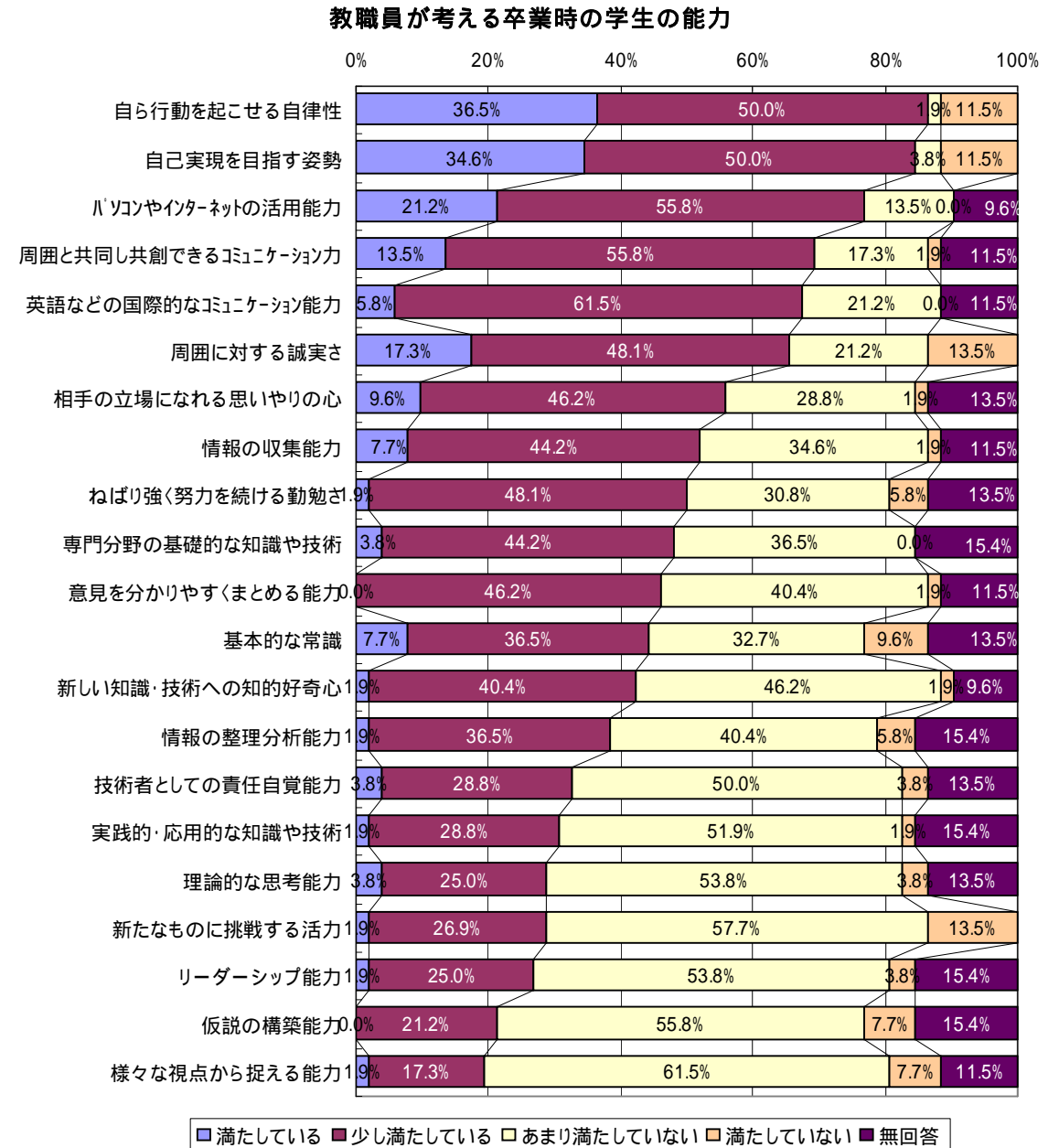
自分自身の能力に関して

- 4～5年生に現在の自分の能力を聞いたところ、「パソコンやインターネットの活用能力」に最も自信を持っており、61.8%が自分はその能力を備えていると答えていた。
- 「基本的な常識」も61.7%が備えていると答えておりほぼ同じであり、これらの2つの能力が現在の学生の自信がある点と言える。
- 次いで、「理論的な思考能力」「情報の収集能力」「技術者としての責任自覚能力」などに自信を持っていた。
- 一方、最も低かったのは「英語などの国際的なコミュニケーション能力」であり、ここに弱点を感じているようであった。
- 「実践的・応用的な知識や技術」「意見を分かりやすくまとめる能力」「専門分野の基礎的な知識や技術」なども低かった。
- これらを見ると、情報を収集したり、そのためのパソコン能力、理論的に考える能力といった、基礎的な能力には自信があるが、相手と向き合う英会話、応用力やまとめる能力など、何か事が起こらなければ発することができない実践的な力や場面場面での判断能力などは弱いと感じていると言えそうである。



教職員が考える卒業時の学生の能力

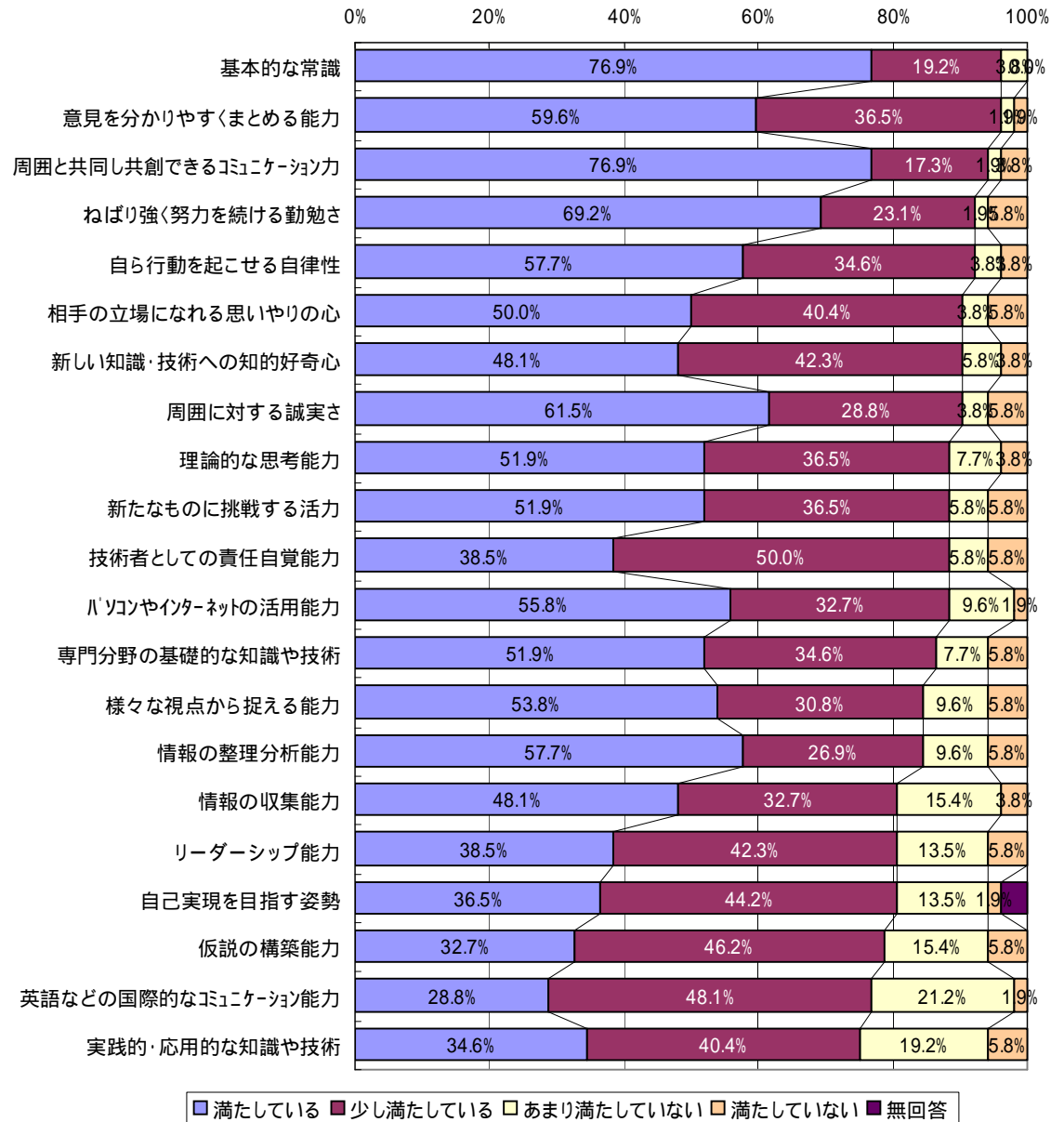
- 教職員には卒業時点の学生の能力に関して21項目の質問をしている。
- 教職員が金沢高専の卒業生の能力として最も優れていると感じているのは「自ら行動を起こせる自律性」であり、次いで「自己実現を目指す姿勢」「パソコンやインターネットの活用能力」「周囲と共同・共創できるコミュニケーション力」「英語などの国際的なコミュニケーション能力」といったものであった。
- 上位にあるものの中で実践的な能力は「パソコンやインターネットの活用能力」と「英語などの国際的なコミュニケーション能力」の2点であり、これらはカリキュラムの中で重視しているものと思われる。
- 上位で実践的な能力以外を見ると、自律性、自己実現、周囲と共同・共創など、仕事を進める上での心構え的なものであり、この辺りは学生も自信を持って良いと言えそうであった。
- 一方、低かったのは「様々な視点から捉える能力」「仮説の構築能力」「リーダーシップ能力」「新たなものに挑戦する活力」「理論的な思考能力」などであり、これらを見ると卒業生には「実践的な力や応用力」が足りず、姿勢としては「リーダーシップや前に出て周囲を引っ張る力」が足りないと感じているようであった。



教職員が考える社会が新入社員に求める能力

- 教職員が考える社会が新入社員に求める能力として、最も多かったのは「基本的な常識」であった。次いで「意見を分かりやすくまとめる能力」「周囲と共同・共創できるコミュニケーション能力」「ねばり強く努力を続ける勤勉さ」などが続いていた。
- これらを見ると、実践的な力ではなく心構えや仕事に対する姿勢が多く挙げられており、教職員は、まず心構えなどが重要だと考えていることが分かった。
- 一方、低かったのは「実践的・応用的な知識や技術」「英語などの国際的なコミュニケーション能力」「仮説の構築能力」「自己実現を目指す姿勢」「リーダーシップ能力」などであった。
- これらを見ると、応用的な実践的な知識・技術や英語力、仮説構築能力といった実務的で実践的な能力はそれほど重要視されていないと考えているようであった。
- ただし、最も少ない「実践的・応用的な知識や技術」でも75.0%の教職員は必要だと考えており、決して不要だという事ではなかった。

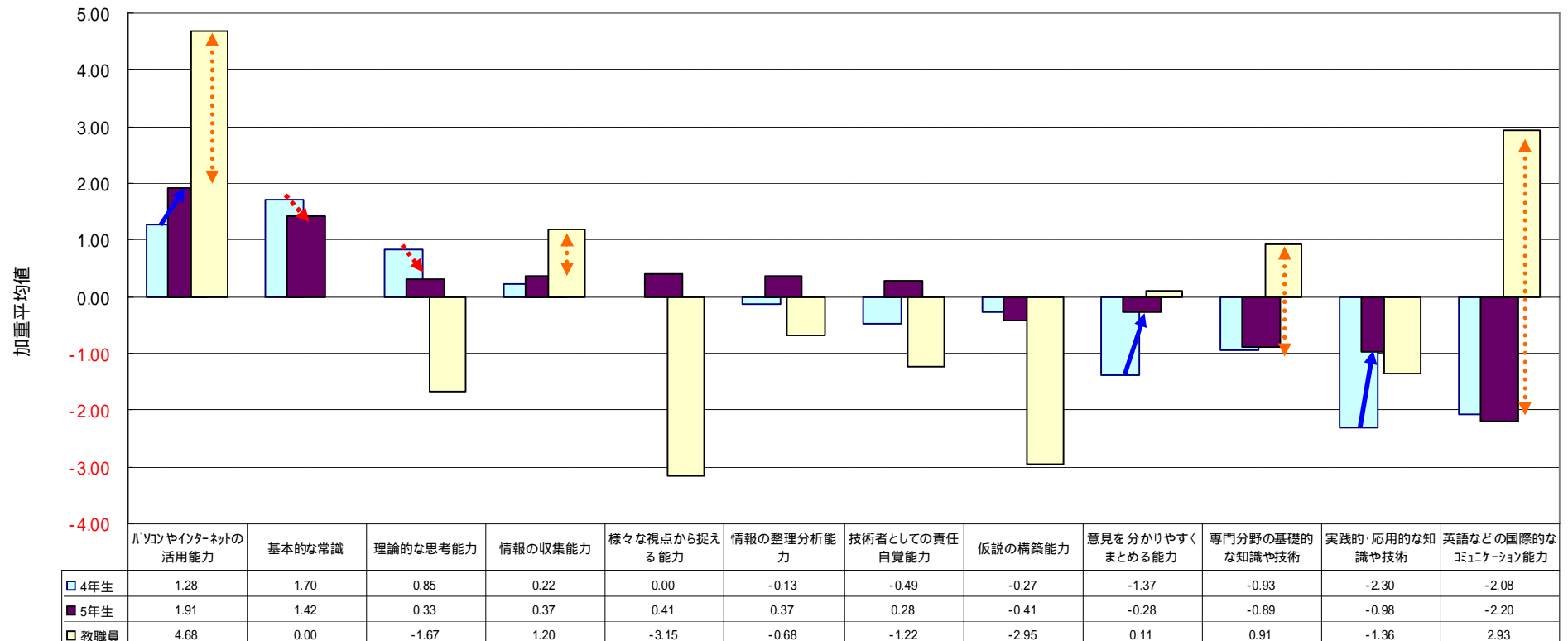
教職員が考える社会が新入社員に求める能力



学生の自己評価と教職員の学生能力評価の比較

- 学生の自己評価は「4年生」の「5年生」の学年別に比較し、「教職員」には「学生の卒業時点の能力」として聞いた設問の結果を比較した。
- まず、「4年生」と「5年生」の結果にはそれほど大きな差がなかった。「4年生」から「5年生」にかけてやや大きく下がったものは「基本的な常識」「理論的な思考能力」の2つであり、これは卒業を控えて実態が分かって自信がなくなったなどの影響があると思われる。
- 一方、「4年生」から「5年生」にかけて自信がついていたのは「パソコンやインターネットの活用能力」「意見を分かりやすくまとめる能力」「実践的・応用的な知識や技術」などであった。
- 「教職員」の評価との差において、学生の自己診断よりも「教職員」の評価が大きく上回っていたのは「パソコンやインターネットの活用能力」「英語などの国際的なコミュニケーション能力」の2点であった。他にも「専門分野の基礎的な知識や技術」「情報の収集能力」は学生が自信を持って良い能力であると言える。
- 一方、教職員の評価が低かったのは「理論的な思考能力」「様々な視点から捉える能力」「仮説の構築能力」といった点であり、教職員はやはり、学生の応用的な能力に課題を感じているようであった。

自分自身の現在の能力 学年別・教職員評価との比較



<5-2> 学生の能力のまとめ

学生の能力に関するまとめ

「パソコン活用能力」「常識」「情報収集」など、基礎的な面には自信を持っているが、実践的な能力に不安を感じていた。

- 学生は「パソコンやインターネットの活用能力」と「基本的な常識」に自信を持っており、これが強みと考えていた。また、「理論的な思考能力」「情報収集能力」などにも自信を持っていた。
- 一方、「英語などの国際的なコミュニケーション能力」が最も低く、これが弱点と考えていた。そして「実践的・応用的な知識や技術」「意見を分かりやすくまとめる能力」など、実践的な能力に不安を感じているようである。

「基本的な常識」「技術者としての責任自覚能力」は3年連続で大きく下がっており、自信が持てなくなっている。

- H18よりスコアが上がったのは「パソコンなどの活用能力」「情報収集能力」「仮説構築能力」「意見をまとめる能力」などであったが、上がり方はあまり大きくはなかった。
- 一方、「基本的な常識」「技術者としての責任自覚能力」は継続的に大きく低下しており、「専門分野の基礎的な知識や技術」「英語などの国際的なコミュニケーション能力」も低下していた。

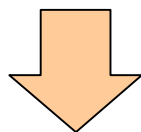
5年生になって自信を失っている点があがえた。

「パソコン」や「英語」に関してはもっと自信を持って良いと言える。

- 「基本的な常識」「理論的な思考能力」は「4年生」よりも「5年生」の方が低く、卒業を控えて自信を喪失している傾向があがえた。
- 「パソコンなどの活用能力」「意見をまとめる能力」「実践的・応用的な知識や技術」は「5年生」になって自信が増していた。
- 教職員は学生に対して「パソコンなどの活用能力」「英語などの国際的なコミュニケーション能力」はもっと自信を持つべきだと考えていた。

教職員は卒業生に対し、仕事に対する心構えはできているが、実践的な能力や前に出て人を引っばる点が欠けていると見ていた。

- 教職員は、金沢高専の卒業生は「パソコン」「英語」といった実践的な能力を持っていると考えており、その他に、「自律性」「自己実現能力」「周囲との共同・共創」といった、仕事を進める上での姿勢は備えていると考えていた。
- 一方、「様々な視点から捉える能力」「仮説の構築能力」「リーダーシップ能力」など、実践的な能力や前に出て周囲を引っばる力などが欠けていると感じていた。



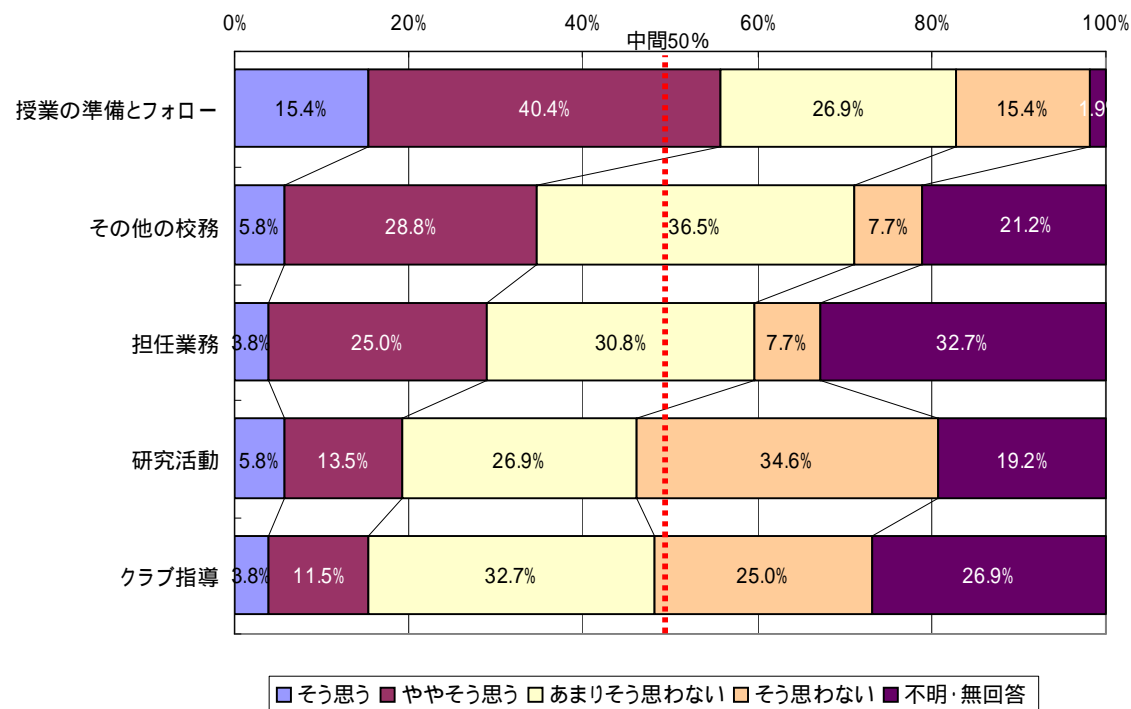
- ◆ 学生は「パソコンなどの活用能力」「常識」「情報収集」など、基礎的な面に自信を持っていた。そして、教職員からも「パソコンなどの活用能力」の評価は高く、この点は自信を持って良いと言える。
- ◆ また、学生は「英語」に対しては最も自信を持てていなかったが、教職員からの評価は非常に高く、学生はこの点にもっと自信を持って良いと言える。今後はもっと自信を持たせるための工夫も必要と言える。
- ◆ 学生自身、教職員共に、学生には実践的な能力が足りないと感じているようであった。教職員は社会に出た新人の時点ではこれらの能力は求められていないと考えているが、今後は実践的な能力や応用力を育てることで自信を持たせることも重要になると思われる。

< 6-1 > 教職員の満足度に関して

業務に充てる時間

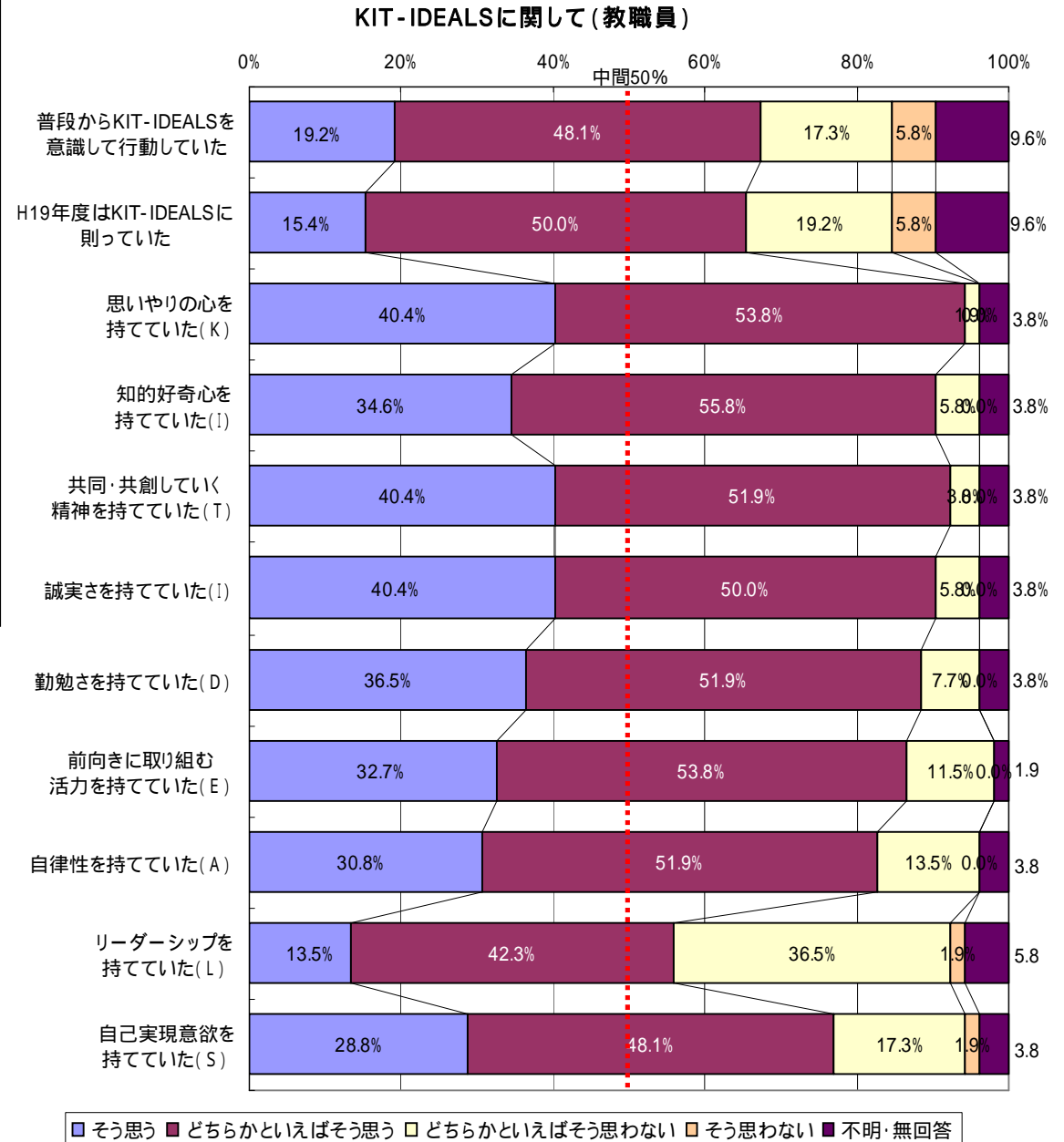
- 教職員が業務に十分な時間を充てることができるかどうかを業務の分野別に聞いた。
- まず、最も時間を充てることができていると答えていたのは「授業の準備とフォロー」であり、55.8%と5割以上の教職員が時間を充てることができていると答えていた。しかし、42.3%は時間を充てることができていないと答えており、最も重要な「授業の準備とフォロー」に十分な時間を充てることができていないということは大きな課題であると言える。
- 次に、「その他の校務」に時間を充てることができている教職員は34.6%であった。「その他の校務」に時間を充てている教職員は「担任業務」や「研究活動」「クラブ指導」を上回っており、「その他の校務」にあたる業務が多いことが予測できる。
- 「担任業務」では28.8%が時間を充てることができていると答えており、「研究活動」で19.3%、「クラブ指導」で15.3%であった。これらの業務には非常に時間を取りにくい状況がうかがえる。
- 学生に対して、「課外活動の取り組みに熱心な先生は多いか？」と聞いたところ、その評価は教職員に対する評価の中で最も低いという結果であったが、教職員に聞いても時間がとれていないことが確認できた。

業務に十分な時間を充てることができるか



KIT-IDEALSに関して

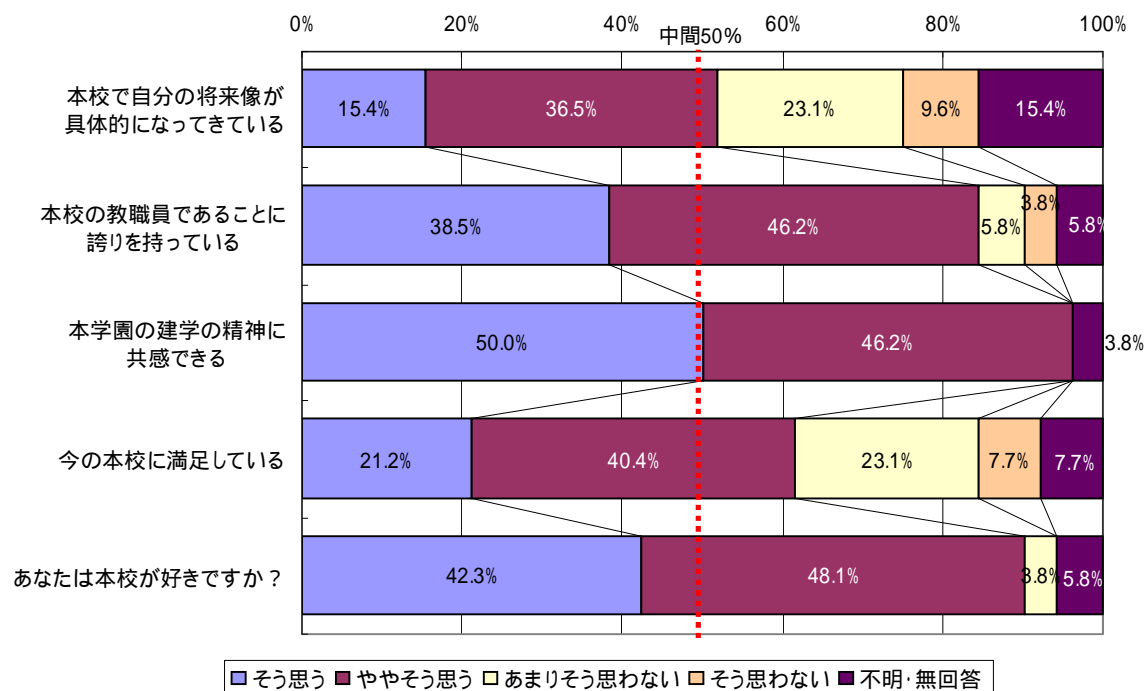
- 学生と同様に教職員自身のKIT-IDEALSに対する姿勢を聞いた。
- 「普段からKIT-IDEALSを意識して行動していた」では67.3%がそう思うと答えていた。「H19はKIT-IDEALSに則っていた」についても65.4%がそう思うと答えており、7割弱はKIT-IDEALSを意識しているという結果であった。
- 個別の項目を見ると、最も高かったのは「思いやりの心(K)」であり、これは学生の回答と一致していた。
- 次に「共同・共創していく精神(T)」「知的好奇心(I)」「誠実さ(I)」などが続いており、これらも学生の回答と一致しており、金沢高専では学生、教職員共にこれらの項目を意識しやすい環境にあると言えるであろう。
- 一方、最も低かったのは「リーダーシップ(L)」で、これも学生と一致しており、リーダーシップを持つことは学生、教職員の両者の課題と言える。



教職員のKTCに対する考え

- 教職員のKTCに対する考えとして「今の本校に満足しているか」という設問に対しては、21.2%が「そう思う」、40.4%が「ややそう思う」と答えており、合わせると61.6%が満足していると答えていた。また、30.8%は不満を感じていた。
- 「あなたは本校が好きですか」という設問に関しては42.3%が「そう思う」、48.1%が「ややそう思う」と答えており、合わせて90.4%が好きと答えていた。また、9.6%は好きでないと答えていた。
- まず、これらを見ると教職員の3割は不満を感じており、1割は学校自体を好きではないと答えていたとすることが分かるが、これらを改善していくことが教職員のための学校改善であり、今後の大きな課題と言える。
- その他では「本学園の建学の精神に共感できるか」に対しては96.2%が共感できると答えており、これは非常に高い数値であると言える。「本校の教職員であることに誇りを持っているか」では84.7%が持っていると答えていた。
- 最も低かったのは「本校で自分の将来像が具体的になってきているか」という設問で、そう思うと答えた教職員は15.4%であり、32.7%はそう思わないと答えていた。3割以上が将来が見えないと答えており、この点はサポートなどをしっかりする必要があると言える。

教職員のKTCに対する考え



< 6-2 > 教職員の満足度のまとめ

教職員の満足度のまとめ

最も重要な「授業の準備とフォロー」に充てる時間が不十分だという意見が多く、「その他の校務」も多いようであった。

- 最も時間を充てることができているのは「授業の準備とフォロー」であるが、42.3%の教職員が十分な時間を充てることができないと答えていた。
- 「その他の校務」にも、他と比較すると多くの時間が充てられており、「その他の校務」自体の多さが予測できた。
- 学生は教員が「課外活動の取り組みに熱心でない」と考えていたが、教職員自身も十分な時間がとれていないと感じていた。

多くの分野でH18よりも時間を取りやすくなっており、わずかではあるが改善が進んでいる様子であった。

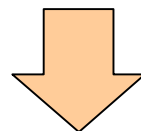
- 「授業の準備とフォロー」に時間を充てられるという意見は増加しており、改善がうかがえた。
- 「その他の校務」「担任業務」「研究活動」でも、時間を充てられるという意見がわずかではあるが増加していた。
- 「クラブ指導」だけが横這いの状態であり、この点では改善は進んでいないようであった。

「思いやりの心」「共同・共創の精神」などの意識が高く、「リーダーシップ」が低いなど、学生と教職員の意識が似ていた。

- 「普段からKIT-IDEALSを意識」「H19はKIT-IDEALSに則っていた」では、7割弱がKIT-IDEALSを意識していると答えていた。
- 「思いやりの心」「共同・共創の精神」「知的好奇心」「誠実さ」などの意識が高く、学生の挙げていたものと一致していた。
- 「リーダーシップ」の低さが目立っており、この点も学生と一致していた。学生、教職員共に「リーダーシップ」を持つことが課題であると言える。

教職員の9割は学校が好きで、8割は誇りを持っていると答えているが、満足しているのは6割であった。

- 「今の本校に満足している」という教職員は全体の6割で、3割は不満を感じていた。ただし、「本校が好き」という教職員は9割であり、好きだが満足はできていないという教職員が多いようであった。
- また、「本校に誇りを持っている」も8割以上であり、共感性は高いと言える。
- 教職員の3割は将来が見えないと答えており、これに関してはしっかりしたフォローが必要と言える。



- ◆ H18よりもわずかに改善されたものの、多くの業務に追われて時間を取りにくいと感じている教職員が依然として多いことが確認できた。
- ◆ 最も重要な「授業の準備とフォロー」でも4割の教職員が十分に時間がとれないと感じていた。そして、「その他の校務」に多くの時間を割いている様子が見られた。これらの業務実態を具体的に把握して調整することも今後の課題になると思われる。
- ◆ 学生、教職員共に「思いやりの心」「共同・共創の精神」「知的好奇心」を持っていて、「リーダーシップ」を持っていないというよく似た状況が見られた。
- ◆ 教職員の9割は学校が好きで、8割は誇りを持っており、学校に対する共感性は高いと言える。しかし、4割が不満を持っており、3割は将来が見えないと答えており、教職員に対してもしっかりしたフォローが必要であると言える。

平成19年度

KTC総合アンケート調査結果[報告書]

発行日	平成19年12月21日
発行者	金沢工業高等専門学校
調査票設計・分析	有限会社 アイ・ポイント
編集	金沢工業大学企画部CS室

無断複製厳禁

再生紙を使用しています